

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2019年11月28日
【事業年度】	第41期（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）
【会社名】	ユーピーアール株式会社
【英訳名】	UPR Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 酒田 義矢
【本店の所在の場所】	山口県宇部市寿町三丁目5番26号 （同所は登記上の本店所在地であり、主たる本社業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区内幸町一丁目3番2号 内幸町東急ビル12階
【電話番号】	03(3593)8013
【事務連絡者氏名】	取締役理財部長 高井 健介
【縦覧に供する場所】	ユーピーアール株式会社 東京本社 （東京都千代田区内幸町一丁目3番2号 内幸町東急ビル12階） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

（注）第41期有価証券報告書より日付の表示を、和暦表示から西暦表示に変更しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第39期	第40期	第41期
決算年月	2017年 8 月	2018年 8 月	2019年 8 月
売上高 (千円)	9,312,073	10,367,224	11,671,483
経常利益 (千円)	269,820	803,401	1,008,037
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	155,454	566,949	573,084
包括利益 (千円)	193,431	471,024	566,424
純資産額 (千円)	3,652,556	4,120,710	5,856,248
総資産額 (千円)	13,156,952	14,341,961	16,882,846
1株当たり純資産額 (円)	3,164.29	3,572.09	3,809.68
1株当たり当期純利益 (円)	135.41	493.86	464.31
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	27.61	28.59	34.57
自己資本利益率 (%)	4.39	14.66	11.53
株価収益率 (倍)	-	-	11.91
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,634,968	2,166,305	2,298,969
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,542,484	1,401,573	4,235,803
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,120,139	451,915	1,915,071
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	2,741,686	3,054,563	3,023,321
従業員数 (人)	173	180	197

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 2019年1月21日開催の取締役会決議に基づき、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。そのため、第39期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 第39期及び第40期の株価収益率については、当社株式は非上場であるため、記載しておりません。

5. 従業員数は正社員の就業人員(グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員等)は、従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第37期	第38期	第39期	第40期	第41期
決算年月	2015年 8月	2016年 8月	2017年 8月	2018年 8月	2019年 8月
売上高 (千円)	7,905,031	8,862,560	9,133,007	10,075,634	11,288,530
経常利益 (千円)	524,560	648,401	277,624	808,042	1,024,650
当期純利益 (千円)	464,010	360,320	153,697	577,010	591,261
資本金 (千円)	96,000	96,000	96,000	96,000	96,000
発行済株式総数 (株)	76,600	76,600	76,600	76,600	1,532,000
純資産額 (千円)	3,592,147	3,403,944	3,592,242	4,073,890	5,826,985
総資産額 (千円)	11,613,290	14,126,723	13,051,299	14,242,445	16,788,840
1株当たり純資産額 (円)	2,350.88	2,965.11	3,129.13	3,548.68	3,803.60
1株当たり配当額 (円)	100	50	50	50	40
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	303.67	244.00	133.88	502.62	479.04
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	30.93	24.10	27.52	28.60	34.71
自己資本利益率 (%)	16.22	10.30	4.39	15.05	11.94
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	11.54
配当性向 (%)	1.65	1.02	1.87	0.50	8.35
従業員数 (人)	123	137	145	159	169
株主総利回り (%)	-	-	-	-	-
(比較指標:「-」)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
最高株価 (円)	-	-	-	-	6,930
最低株価 (円)	-	-	-	-	3,400

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 2019年1月21日開催の取締役会決議に基づき、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。その結果、発行済株式総数は1,532,000株となっております。

3. 2019年1月21日開催の取締役会決議に基づき、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。そのため、第37期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

4. 第37期の1株当たり配当額には、創立35周年記念配当50円を含んでおります。

5. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

6. 第37期から第40期までの株価収益率については、当社株式は非上場であるため、記載しておりません。

7. 従業員数は正社員の就業人員(社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員等)は、従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

8. 第39期以降の財務諸表については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づき作成しており、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

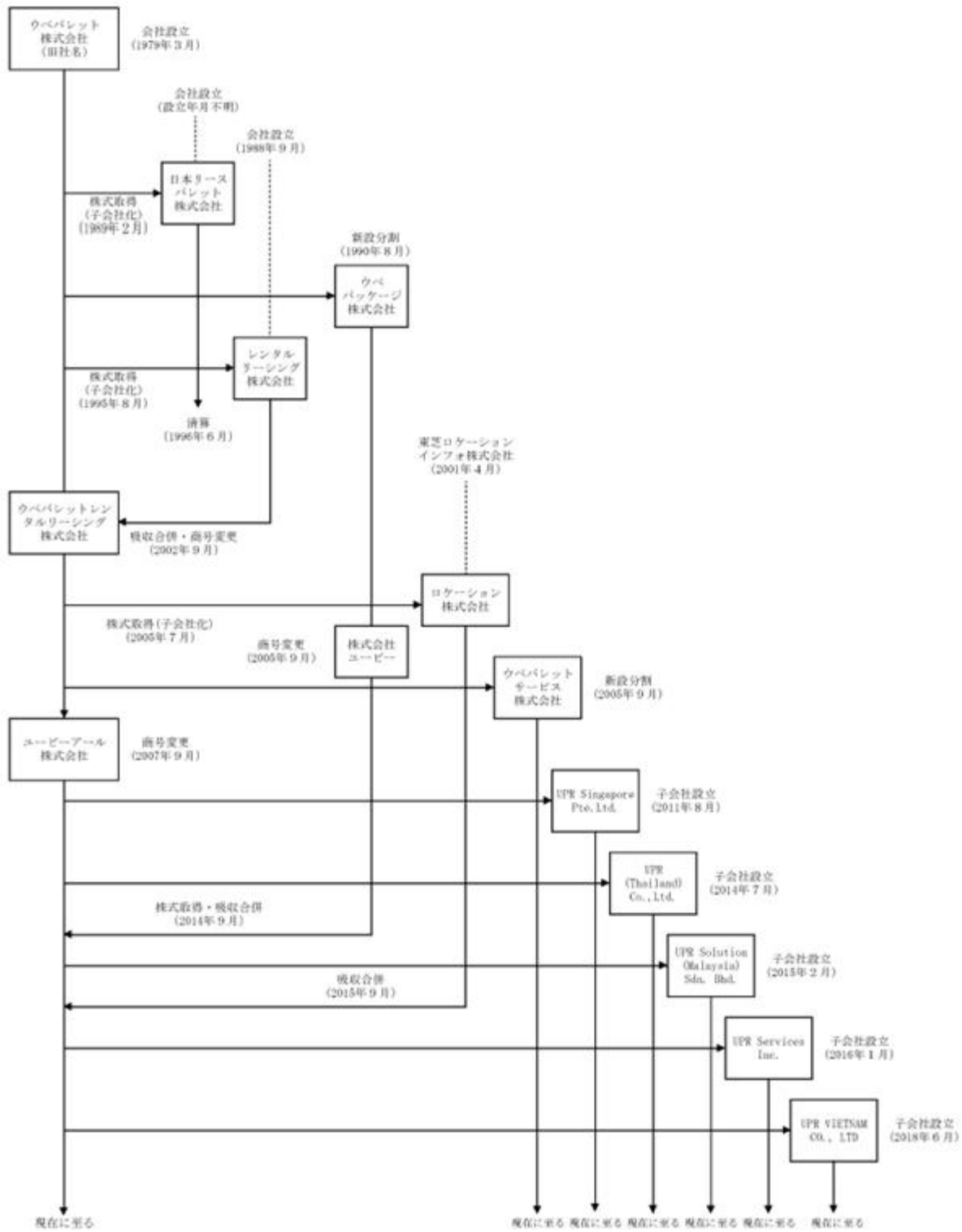
なお、第37期及び第38期については、「会社計算規則」(平成18年法務省令第13号)の規定に基づき算出した各数値を記載しております。また、当該各数値については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づくEY新日本有限責任監査法人の監査を受けておりません。

9. 2019年6月12日をもって東京証券取引所（市場第二部）に株式を上場したため、第37期から第41期の株主総利回り及び比較指標については記載していません。
10. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所（市場第二部）におけるものであります。なお、2019年6月12日をもって同取引所に株式を上場いたしましたので、それ以前の株価については記載していません。

2【沿革】

年月	概要
1979年3月	パレットの製造、販売及びレンタルを目的として山口県宇部市大字藤曲（現宇部市西平原）にウベパレット株式会社を資本金10,000千円で設立
1982年11月	福岡県福岡市東区に福岡営業所を開設
1982年12月	山口県宇部市大字善和に本社・工場を新築移転
1986年10月	一般社団法人日本パレット協会（略称JPA）認証工場となる
1988年9月	レンタルリーシング株式会社設立（現 東京営業所開設）
1989年2月	日本リースパレット株式会社を子会社化（現 大阪営業所開設）
1990年8月	梱包部門を分離し、ウベパッケージ株式会社を設立
1995年8月	レンタルリーシング株式会社を子会社化
1996年6月	日本リースパレット株式会社を清算
1997年9月	愛知県西春日井郡西春日町に名古屋営業所を開設（レンタルリーシング株式会社名古屋営業所内）
1999年1月	本社工場にてISO9001の認証取得
2002年9月	レンタルリーシング株式会社を合併しウベパレットレンタルリーシング株式会社に商号を変更
2002年10月	コネクティッド事業における追跡システム（現 追跡ソリューション）の提供開始
2005年7月	追跡システム（現 追跡ソリューション）を強化するため、ロケーション株式会社の株式を取得、子会社とする
2005年9月	ウベパッケージ株式会社を株式会社ユーピーに商号変更
2005年9月	ウベパレットレンタルリーシング株式会社の製造部門を分離し、ウベパレットサービス株式会社を設立
2006年11月	コネクティッド事業におけるカーシェアリング自主運営事業の開始
2007年1月	北海道札幌市中央区に札幌営業所を開設
2007年4月	宮城県仙台市青葉区に仙台営業所を開設
2007年9月	ユーピーアール株式会社に商号を変更
2009年4月	コネクティッド事業における遠隔監視ソリューションの提供開始
2011年8月	アジアでの事業展開を図るため、シンガポール法人UPR Singapore Pte.Ltd.を設立
2012年9月	静岡県静岡市葵区に静岡営業所を開設
2014年7月	アジアでの事業拡大を図るため、タイ法人UPR (Thailand) Co.,Ltd.を設立
2014年9月	株式会社ユーピーを吸収合併
2014年9月	物流事業におけるアシストスーツの提供開始
2014年9月	岡山県岡山市北区に岡山営業所を開設
2015年2月	アジアでの事業拡大を図るため、マレーシア法人UPR Solution (Malaysia)Sdn. Bhd.を設立
2015年9月	事業の統合により経営資源の有効活用や業務の効率化を図るため、子会社であるロケーション株式会社を吸収合併
2015年9月	新潟県新潟市中央区に新潟営業所を開設
2016年1月	米国AT&T Inc.が提供する「Flight Safe」を利用した、遠隔監視可能な国際間追跡ソリューションを提供するため、アメリカ法人UPR Services Inc.を設立
2017年4月	タイでの事業拡大を図るため、UPR (Thailand) Co.,Ltd.の支店Laem Chabang Branchを開設
2017年4月	ダイフクプラスモア株式会社よりカゴ車のレンタル事業を譲受
2017年9月	埼玉県さいたま市大宮区に関東営業所を開設
2018年6月	アジアでの事業拡大を図るため、ベトナム法人UPR VIETNAM CO.,LTDを設立
2019年3月	鹿児島県鹿児島市に南九州営業所を開設
2019年6月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場

(当社グループの変遷図)



3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社及び連結子会社6社（ウベパレットサービス株式会社、UPR Singapore Pte.Ltd.、UPR (Thailand) Co.,Ltd.、UPR Solution(Malaysia) Sdn.Bhd.、UPR VIETNAM CO.,LTD、UPR Services Inc.）の7社により構成されており、パレット等物流機器のレンタル及び販売を主たる業務としております。

当社グループの事業内容の位置付けは次のとおりであります。

なお、次の2部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

セグメント名称	主な事業内容	主な関係会社
物流事業	<ul style="list-style-type: none"> ・木製・プラスチック製パレット（注）のレンタル及び販売 ・ネスティングラック・カゴ車等金属製物流機器のレンタル及び販売 ・アシストスーツのレンタル及び販売 ・その他物流機器及び関連商品のレンタル及び販売 	当社 ウベパレットサービス株式会社 UPR Singapore Pte.Ltd. UPR (Thailand) Co.,Ltd. UPR Solution (Malaysia) Sdn. Bhd. UPR VIETNAM CO.,LTD
コネクティッド事業	<ul style="list-style-type: none"> ・追跡ソリューションのレンタル及び販売 ・遠隔監視ソリューションの役務提供及び関連機器のレンタル及び販売 ・カーシェアリング自主運営事業及びカーシェアリングシステムのレンタル、販売及びカーシェアリング運営受託 	当社 UPR Services Inc.

（注）パレットとは荷物の保管や構内作業、輸送のために使用される薄い箱型の荷台で、木製・プラスチック製・金属製など用途ごとに多彩な種類が存在しております。パレットの上に荷物をまとめて載せることで、フォークリフトで一度に上げ下ろしができるようになるため、荷役作業の全てを人力で行う場合と比べて、作業の効率化が可能となります。倉庫、自動車、電子機器、農産、水産、食品など幅広い業種に利用されています。

当社グループは提供サービスごとの収益状況等の確な運営を行うため事業部制を導入しております。

（物流事業）

物流事業は、パレットなど物流機器のレンタル及び販売、アクティブRFIDタグ（注1）を搭載したスマートパレットのレンタル、現場でのあらゆる作業に従事する作業員の腰・身体的負担を軽減するアシストスーツのレンタル及び販売を行っており、レンタル事業部、販売事業部、スマートパレット事業部、アシストスーツ事業部、海外事業部で構成されております。

当社は、木製パレットの製造、販売及びレンタルからスタートしましたが、時代の流れにより変化する顧客ニーズに迅速に対応し、プラスチック製パレット、ネスティングラックやカゴ車等の金属製品など様々な場面で利用される物流機器を扱い、レンタル及び販売することで発展してまいりました。その過程で営業所やデポ（注2）を全国に展開し、2019年8月31日現在は国内12の営業所と187のデポで運営しており、レンタル用物流機器の保有枚数は約424万枚に達しております（図1）。従来は、荷物保管用のレンタルパレットの割合が高くなっておりましたが、人手不足による物流の効率化が注目される中、安定したレンタル収入を確保するようパレットプールシステム（注3）を利用した荷物輸送用レンタルパレットの提案をしております

また、海外展開については、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナムに拠点を設置しております。日系企業への荷物保管用レンタルパレットの供給をメインとしておりますが、日本とアセアン地域及びアセアン地域内での荷物輸送用レンタルパレットの提案を進めております。またローカル企業に対しても同様にビジネスを展開しております。

- （注）1. 電池を使用せずにリーダーからの電波を使って動作するパッシブタグに対し、電池によって動作するタグをアクティブRFIDタグといいます。アクティブRFIDタグはパッシブタグに比べ通信距離が長いこと、センサーを内蔵できる特徴があります。
2. パレットなど物流機器の貸出、返却を行うサービス拠点です。
3. 互換性のあるパレットを用いて広範囲の業界及び各輸送機関において、相互にパレットを使用してもらう仕組みのことで。

(図) 1. 営業拠点・デポ(国内)



(コネクティッド事業)

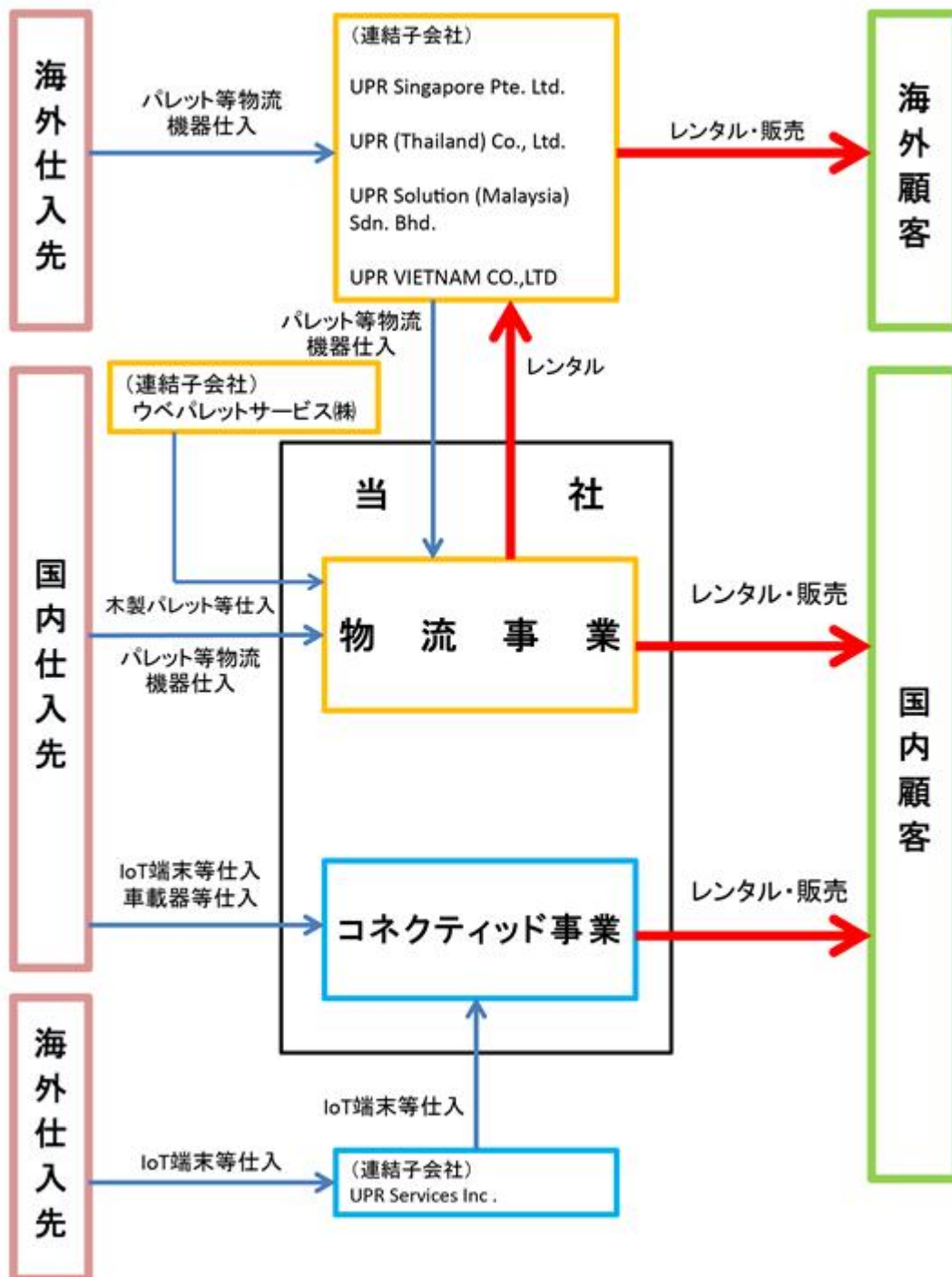
コネクティッド事業は、IoT事業部とビークルソリューション事業部で構成されております。

IoT事業部は、GPS機能を搭載した追跡端末とデータ閲覧のwebサイトをパッケージにした「なんつい(注1)」や「ワールドキーパー(注2)」を主力商品に据え、物流業界を中心に追跡ソリューションを提供しております。また、遠隔監視ソリューション「なんモニ(注3)」で培った経験と知見を活用し、物流業界向けの総合的なIoTソリューション(物流IoT)を展開しております。

ビークルソリューション事業部は、カーシェアリングシステムのレンタル及び販売、カーシェアリング自主運営、カーシェアリング運営受託等のカーシェアリングソリューションを提供しております。現在の大手取引先との関係を更に深めるとともに、実証実験・行政案件に積極的に参画することでカーシェアリング業界内での知名度向上により、自動車メーカーやカーシェアリング事業者等が進めるシェアリングビジネスのパートナーとして販路拡大を継続してまいります。

- (注) 1. 「輸送する貴重品の所在地をリアルタイムに確認でき高品質な輸送サービスの提供」をコンセプトに、開発された「なんでも追跡ソリューション」で、貨物の追跡に留まらずトラックや路線バスの運行管理などにも利用されております。
2. 国際貨物に対応した「海外版なんつい」で、位置情報だけでなく、輸送される貨物の環境データの収集、温度センサー、衝撃センサーを搭載しております。
3. 端末の通信モジュールと遠隔監視端末を利用し、データ閲覧サイトから情報を取得する「なんでもモニタリングソリューション」で、時間貸し駐車場の稼働状況監視、医療用酸素ポンプの残量監視、太陽光発電の発電量監視などに利用されております。

[事業系統図]



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の 内容	議決権の所 有割合又は 被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ウベパレットサービス(株) (注)3.	山口県宇部市	30,000	(物流事業) 木製パレットの製 造、補修及びデポ 事業	100.0	営業上の取引あり 役員の兼任 1名
UPR Singapore Pte.Ltd. (注)3.	シンガポール共和国 シンガポール市	千シンガポール ドル 1,000	(物流事業) パレット及び物流 機器のレンタル、 販売事業	100.0	営業上の取引あり レンタル資産の貸与、資金 の貸付を行っております。
UPR (Thailand) Co.,Ltd.(注)3.4.	タイ王国 バンコク市	千タイバーツ 10,000	(物流事業) パレット及び物流 機器のレンタル、 販売事業	49.0	営業上の取引あり レンタル資産の貸与、資金 の貸付を行っております。
UPR Solution (Malaysia) Sdn.Bhd. (注)3.	マレーシア セランゴール州 シャー・アラム市	千マレーシア リンギット 1,100	(物流事業) パレット及び物流 機器のレンタル、 販売事業	90.9	営業上の取引あり レンタル資産の貸与、資金 の貸付を行っております。
UPR VIETNAM CO.,LTD (注)3.	ベトナム社会主義共和国 ホーチミン市	千米ドル 697	(物流事業) パレット及び物流 機器のレンタル、 販売事業	100.0	営業上の取引あり 資金の貸付を行っておりま す。
UPR Services Inc. (注)3.	米国 カリフォルニア州 サニーベール市	千米ドル 200	(コネクティッド 事業) 追跡ソリューション	100.0	営業上の取引あり

(注)1. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

2. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報の名称を記載しております。

3. 特定子会社に該当しております。

4. 持ち分は100分の50以下ですが、実質的に支配しているため子会社としたものであります。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年8月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
物流事業	149
コネクティッド事業	15
報告セグメント計	164
全社(共通)	33
合計	197

- (注) 1. 従業員数は正社員の就業人員(グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員等)は、従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

2019年8月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
169	37.1	7.2	6,816,262

セグメントの名称	従業員数(人)
物流事業	121
コネクティッド事業	15
報告セグメント計	136
全社(共通)	33
合計	169

- (注) 1. 従業員数は正社員の就業人員(社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員等)は、従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであり、その達成を保証するものではありません。

(1) 経営方針

社是

私たちは社業を通じ社会に貢献します

経営の基本理念

- ・わが社の事業原点：パレットを通じ人々の生活を便利にすること
わが社はパレチゼーション（注）の普及を目指し、パレットの設計、開発製造、販売、レンタル、リサイクル及び物流コンサルティングを手掛けるトータルパレットマネジメントカンパニーとして、より高い品質、利便性、経済性を他社より優れたシステムと企画力で提供し効率的な物流基盤の整備に貢献する。
- ・わが社の目指す企業像：地球と人を尊重する会社
わが社は国際的視野で物事に取り組み、時代に対応して変化する柔軟性を備え、規模より内容を重視し、高付加価値企業の実現を目指し、環境に配慮した循環型社会の構築に貢献し、またわが社で働くすべての人達がワクワク・イキイキとし、会社を通じ自己実現できる環境を追求する。
- ・わが社の求める社員像：情熱あふれ常にチャレンジする人材
わが社の人材は常に向上を目指し、変化に対応する為に自己研鑽し、失敗を恐れず、物事に対し前向きに取り組み、責任を持って困難から逃げることなく、言うべきことは言い、聴くべきは聴く事によりオープンに相互理解を図り、信頼を高めるために常に挑戦する。

上記を経営の基本理念におき、「Social Sharing Supporter（社会のインフラをシェアするupr）」を目指して事業展開を行っております。

当社グループは、地球環境保全の取り組みとして、東南アジアでの植林事業へ参画しております。当社が扱う木製パレットはインドネシアやマレーシア等東南アジアから輸入されており、その土地に再び木を植えることは、木材を利用するものとしての責務だと考えています。これまでにインドネシア、マレーシア、ミャンマーで植林を行ってまいりました。

また、当社発祥の地である山口県及び宇部市で様々な活動を通して地域貢献を行っております。宇部市とのネーミングライツ契約、ユーピーアール杯少年野球大会主催、レノファ山口FCへのスポンサー活動などが主な活動であります。

上記CSR活動に関しまして、第41期連結会計年度において91百万円を充てております。

（注）パレチゼーションとは、パレット（pallet）の上に商品を載せることによって、荷姿の標準化とフォークリフトによる機械荷役ができるメリットを持った物流システムのことであります。

(2) 経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

今後当社グループが既存のコア事業であるパレットレンタルを中心にその他物流IoTソリューション等により競合他社優位性を維持し続けるためには、「(3) 経営環境及び対処すべき課題」に記載の課題に対処していくことが必要と認識しております。その課題に対応するため経営者として常に外部環境の変化に関する情報の入手及び分析を行い、現在及び将来に関する事業環境を把握し、最適な中期経営計画、年度計画を実施していく方針であります。そのため、現在は連結売上高及び連結経常利益を経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等として取締役会等で監視を行っております。

(3) 経営環境及び対処すべき課題

物流は、社会インフラであることから、国の施策の影響を受ける分野ですが、経済成長と国民生活の安定という観点からその重要性が再認識されるようになったことに伴い、政府は2017年に「総合物流施策大綱（2017年度～2020年度）」を閣議決定し、「強い物流」の構築による物流の生産性向上が求められるなど、物流を取り巻く環境は大きく変化しております。

そのような環境の中、当社グループは事業ごとの課題を以下のとおり認識し、施策を進めてまいります。

パレット等物流機器のレンタル事業：

当社グループは家庭紙メーカーの共同利用・共同回収を本格的に稼働し、一定の成果が上がったことで、他業種からのパレット輸送の問い合わせが増加しております。新型パレットやアクティブRFIDタグを搭載した「スマートパレット」を提案することで、それら他業種への共同利用・共同回収を推進し、顧客の物流効率化や生産性向

上に貢献できるよう取り組みます。それがため国内外の営業拠点・デポを拡充するとともに、ITインフラの強化に注力してまいります。

パレット等物流機器の販売事業：

自動化・省力化をキーワードに、物流の効率化に繋がる商品の販売を進め、顧客との信頼関係を構築し、同時にパレット等物流機器のレンタル需要を掘り起こします。

アシストスーツ事業：

2019年9月4日に動力（モーター）付きアシストスーツの新商品「サポートジャケットEp+ROBO（略称：イーピープラスロボ）」を発表し、10月1日からレンタル・サブスクリプション及び販売を開始しております。引き続き、アシストスーツの商品ラインアップを拡充し、様々な用途に適応したアシストスーツを提供し、女性や高齢者を含め、誰もが活躍できる労働環境作りに貢献してまいります。

物流IoT事業：

2019年9月1日より、コネクティッド事業本部のIoT事業部のうち物流事業と親和性の高い事業を物流事業本部へ移管し、物流IoT事業部としました。物流IoTソリューションを既存の物流事業とともに取り扱うことで、顧客に新しい付加価値を提供します。

海外事業：

当社グループはアセアン地域への進出を足掛かりにアジアNo.1のパレットレンタル会社を目指しており、2011年のシンガポールを皮切りに、タイ、マレーシア、ベトナムに順次現地法人を設立してまいりました。各国内の活動だけでなく、日本とアセアン地域及びアセアン地域内でのパレット輸送を推進し、他社と差別化されたサービスを提供してまいります。

ICT事業：

2019年9月1日より、コネクティッド事業本部のIoT事業部のうち、物流事業と関連性の低い事業をICT事業部とし、主に遠隔監視ソリューションを提供しております。遠隔監視ソリューションはHACCPなど様々な場面での可能性があり、顧客への新しい付加価値の提供に積極的に取り組んでまいります。

ビークルソリューション事業：

消費者のシェアリングエコノミーへの関心は引き続き高く、カーシェアリングサービスも拡大しています。既存の顧客へのカーシェアリングシステムのレンタル及び販売増等を実現するとともに、新規の顧客を開拓し、カーシェアリングサービスの事業拡大を継続してまいります。また、それらを支える次世代システムの開発を行ってまいります。

2【事業等のリスク】

本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ですが、当社グループの株式に関する投資判断は、本項及び本書中の本項以外の記載内容も合わせて、慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

なお、文中の将来に関する事項は当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであり、将来において発生の可能性があるすべてのリスクを網羅したものではありません。当社グループが認識していない、予見しがたい又は重要ではないと考えるリスク及び不確定要因も当社グループの事業及び業績に重要な影響を与える可能性があります。

(1) 経済情勢について

当社グループの主たる事業である物流事業は、パレット等物流機器レンタル収益に依存する割合が高く、経済情勢により取引先がパレット等物流機器をレンタルから自社保有へ転換する傾向が強まると、返却等によりレンタル売上は減少します。返却により一時的な保管スペースを要するため保管料は増加します。また、レンタル用パレット等物流機器の需給バランスが崩れることで売上に対する減価償却費の割合が増加します。更に木製・プラスチック製パレットや金属製の物流機器など多品種の物流機器を定期的に購入しているため、原油価格や原材料価格の高騰が続く局面では仕入価格が増加します。以上の要因により、売上原価が上昇することで、当社グループの業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

また、仕入価格が上昇する局面において、他社競合等の理由でレンタル価格や販売価格に転嫁が困難な場合には、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(2) 事業環境について

物流事業

パレット等物流機器レンタル業全般につきましては、一日当たりのレンタル料金の競争が激化しております。レンタル事業で安定した収益を上げるためには相当の設備投資が必要になるため、新規の参入は容易ではありませんが、当社グループはレンタルパレットを約424万枚保有しており、パレットプールシステムの提案等を通して顧客の輸送効率向上に貢献し、単なる価格競争に巻き込まれることなく、当該環境下でのシェア拡大を図ってまいります。しかしながら、今後当社グループの優位性が相対的に低下した場合や、更なる競争激化による価格下落が生じた場合には、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。また、スマートパレットについては、高性能のアクティブRFIDタグとリーダーにより、高い読取率を低コストで提供することで顧客のパレット等物流機器管理に貢献しておりますが、より小型で廉価なタグの開発や電池寿命の飛躍的な伸びなど、技術の進歩により当社グループの商品が陳腐化した場合は、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

アシストスーツ事業においては、各社が試行錯誤し様々なアシストスーツを開発しております。黎明期のアシストスーツ市場でのシェア獲得のために、当社グループも軽量化とコストダウンを目的としたアシストスーツの開発に取り組んでおります。しかしながら、商品化のタイミングや更なる技術の進歩により当社グループの商品が陳腐化した場合は、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

物流IoT事業については、追跡ソリューションが主な収益の柱となっておりますが、参入障壁が低く競合他社も相当数に上るため、当社グループの提供するソリューションが新しい技術やサービスの台頭により陳腐化した場合は、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

コネクティッド事業

ICT事業については、遠隔監視ソリューションが主な収益の柱となっておりますが、参入障壁が低く競合他社も相当数に上るため、当社グループの提供するソリューションが新しい技術やサービスの台頭により陳腐化した場合は、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

ビークルソリューションについては、カーシェアリングで提供する車載器等の端末が、新しい技術やサービスの台頭により陳腐化した場合は、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(3) 仕入先への依存について

当社グループが扱っているレンタル商品のうち、当連結会計年度に仕入れたプラスチックパレットについては三甲株式会社（子会社含む）及び岐阜プラスチック工業株式会社が製造した商品に98%以上依存しております。そのような特定の仕入先とは取引開始以来、良好な関係を継続しており、今後も仕入取引を継続していく方針であります。何らかの要因により、取引が継続できなくなった場合には、当社グループの商品供給体制に重大な支障が発生し、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(4) 海外展開について

当社グループは、主にアセアン地域へ海外展開しており、アセアン地域内及び日本とアセアン地域での物流機器レンタル・販売を強化する計画であります。

このため、今後アセアン地域及び当社グループの現地法人が所在する地域での経済情勢・事業環境の悪化、予期せぬ法律・規則等の変更、治安の悪化やテロ活動の活発化、商習慣の相違、自然災害や感染症の発生等のリスクが顕在化した場合は、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(5) 新規事業について

当社グループは、事業規模の拡大と収益源の多様化を進めるため物流と親和性のある新規事業に取り組んでいく考えであります。しかしながら新規事業は不確定要素が多く、計画が想定どおり進捗しない可能性があります。また、実現にあたっては、人材の採用等経営資源の追加的な投入を要するなど、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(6) 製品欠陥について

当社グループにおいては、主として信頼のおけるメーカーの製品を仕入れておりますが、全ての製品について欠陥がなく、将来において顧客からの製品の欠陥に起因する損害賠償請求等が発生しないという保証はありません。万一損害賠償請求等があった場合は、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(7) 委託先について

当社グループの物流事業では、当社グループが保有するレンタル資産をデポ（物流機器の貸出、返却を行うサービス拠点）で管理しており、運営は第三者へ委託しております。委託先の事情によりデポの管理運営が不可能になった場合や、契約更新により管理料の交渉が想定どおりに行われなない場合は、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(8) 資金調達について

当社グループにおいては金融機関からの借入金により運転資金及び設備投資資金を調達しております。借入金の一部については固定金利での調達により金利変動リスク軽減の施策を講じておりますが、金融市況及び景気動向の急激な変動等により、当社グループの財政状態及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(9) 固定資産の減損に関するリスク

当社グループが保有する固定資産については、「固定資産の減損に係る会計基準」を適用しております。同会計基準では、減損の兆候が認められる資産又は資産グループについては、当該資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回った場合に、帳簿価額を回収可能価額（当該資産又は資産グループから得られる割引後将来キャッシュ・フローの総額もしくは当該資産又は資産グループの正味売却価額のいずれか高い方の金額）まで減額し、減額した当該金額を減損損失として計上することとなります。

また当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す資産又は資産グループの最小単位として、主として事業単位を基本単位としてグルーピングを行っており、連結子会社につきましては、会社単位を基本単位としてグルーピングを行っております。

このため、当該資産又は資産グループが属する事業の経営環境の著しい変化や収益状況の悪化等により、固定資産の減損損失を計上する必要が生じた場合には、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(10) 自然災害等について

当社グループは、国内外において営業所、デポなどの設備を利用し事業を行っております。これらの利用している設備が、地震、津波、洪水、火災等の自然災害又は暴動等の偶発的事故によって毀損し、事業が中断する可能性があります。また、利用している設備が被害を受けた場合、事業再開の遅れにより、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

さらに、当社グループが展開する全ての地域において、役員及び従業員の死亡や負傷による欠員があった場合、一部又は全部の業務が中断し、事業活動が継続できなくなる可能性があります。

その他、災害等により当社グループの主要な取引先に重大な被害が発生した場合には、取引先の営業・生産活動の停滞が当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(11) 情報セキュリティについて

当社グループは、事業全般においてコンピュータシステムを活用し情報資産の管理を行うとともに業務の効率化を図っております。情報セキュリティ管理規程及びシステム管理要領を定め、情報セキュリティ対策の強化、バックアップ体制の構築等の危機管理を講じておりますが、予期せぬ不正アクセス、コンピュータウィルス侵入等による情報漏えいや、自然災害、事故等によりシステムが機能しなくなった場合、提供するサービスの低下を招くことにより、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(12) 人材の確保・育成

当社グループは、今後の業容の拡大に伴い、継続的な人材の確保が必要となるため、優秀な人材を適切に確保するとともに、人材の育成に努めてまいります。しかしながら、人材の確保、育成が計画どおり進まなかった場合には、収益の減少や費用の増加等により、当社グループの事業及び業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態の状況

当連結会計年度末において、資産合計は、有形固定資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ2,540百万円増加し、16,882百万円となりました。

負債合計は、1年内返済予定の長期借入金の増加等により、前連結会計年度末に比べ805百万円増加し、11,026百万円となりました。

純資産合計は、2019年6月12日に東京証券取引所市場第二部へ上場したことに伴う自己株式の処分をしたこと、及び利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ1,735百万円増加し、5,856百万円となりました。

経営成績の状況

当連結会計年度における経済環境は、企業収益や雇用情勢の改善が継続し、景気は緩やかな回復基調が続いております。

物流業界を取り巻く環境については、トラックドライバーの高齢化や人手不足が深刻化し人件費の高騰などにより更なる効率化・省力化が求められています。また、国土交通省・経済産業省・農林水産省の「ホワイト物流」推進運動にパレット等の活用が推奨されるなど、パレット輸送への関心は高まっております。このような環境の中、運送会社がバラ積み敬遠しパレット輸送が急拡大し、輸送用レンタルパレットへの需要は増加しました。また、5月の改元による10連休及び10月の消費税増税へ対応するために各社が在庫を積み増した結果、保管用レンタルパレットの需要は増加傾向が続きました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は11,671百万円（前年同期比12.6%増）、営業利益は756百万円（前年同期比18.9%増）、経常利益は1,008百万円（前年同期比25.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は573百万円（前年同期比1.1%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

（物流事業）

物流事業におきましては、上記理由から輸送用、保管用パレットのレンタル需要が拡大したことに加え、家庭紙パレットの共同利用・共同回収が本格的に移動しました。またアシストスーツ事業では、2018年9月に発売を開始したサポートジャケット（Bb+FIT）の販売が順調に推移しており、前年から大幅な増加で推移しております。

この結果、物流事業では、売上高10,528百万円（前年同期比10.7%増）、セグメント利益1,792百万円（前年同期比6.2%増）となりました。

（コネクティッド事業）

コネクティッド事業におきましては、IoTサービスでは、追跡ソリューション及び遠隔監視ソリューションの販売案件の受注が増加、ピークルソリューションサービスでは、「所有」から「利用」へのシフトによる堅調な顧客の増車計画に伴い、カーシェアリングシステムのレンタル及び販売が想定を上回るペースで推移いたしました。

この結果、コネクティッド事業では、売上高1,143百万円（前年同期比33.4%増）、セグメント利益146百万円（前年同期はセグメント損失30百万円）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ31百万円減少し、当連結会計年度末には3,023百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は2,298百万円（前年同期2,166百万円の収入）となりました。収入の主な要因としては減価償却費2,048百万円及び税金等調整前当期純利益922百万円等、支出の主な要因としては法人税等の支払額560百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は4,235百万円(前年同期1,401百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出4,313百万円及び無形固定資産の取得による支出73百万円、保険積立金の解約による収入159百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は1,915百万円(前年同期451百万円の支出)となりました。支出の主な要因としては長期借入金の返済による支出1,494百万円等、収入の主な要因としては長期借入れによる収入2,240百万円に加え、2019年6月12日に東京証券取引所市場第二部へ上場したことに伴う自己株式の売却による収入1,172百万円等によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当社グループで行う事業は、提供するサービスの性格上、生産実績の記載に馴染まないため、当該記載を省略しております。

b. 仕入実績

当社グループで行う事業は、提供するサービスの性格上、受注実績の記載に馴染まないため、当連結会計年度の仕入実績を記載いたします。セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
物流事業	6,719,119	148.3
コネクティッド事業	624,986	81.7
合計	7,344,106	138.7

- (注) 1. レンタル資産(固定資産計上)及び販売用器具の購入を記載し、売上原価に計上されている運送費等は除いて記載しているため、財務会計上の売上原価とは一致いたしておりません。
 2. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
物流事業	10,528,030	110.7
コネクティッド事業	1,143,453	133.4
合計	11,671,483	112.6

- (注) 1. 主たる販売先に関しましては、相手先別販売実績の総販売実績に対する割合が10%以上の販売先がないため、省略しております。
 2. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び

開示に影響を与える見積りを必要とします。これらの見積りについて過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、見積り特有の不確実性から、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 当社グループの経営成績等

1) 経営成績

(売上高)

当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度と比較して1,304百万円増加し11,671百万円（前年同期比12.6%増）となりました。主な要因は、パレットレンタル事業において、家庭紙メーカーの共同利用・共同回収が本格的に稼働するなど輸送用パレットの需要が増加しことに加え、保管用パレットの需要も堅調に推移したことによるものであります。

(売上原価・売上総利益)

当連結会計年度の売上原価は、前連結会計年度と比較して686百万円増加し7,436百万円（前年同期比10.2%増）となりました。主な要因は売上増加に伴うパレットレンタル関連の減価償却費及び運送原価等が増加したことによるものであります。

その結果、売上総利益は、前連結会計年度と比較して617百万円増加し4,234百万円（前年同期比17.1%増）となりました。

(販売費及び一般管理費・営業利益)

当連結会計年度の販売費及び一般管理費は、前連結会計年度と比較して497百万円増加し3,477百万円（前年同期比16.7%増）となりました。これは主に人員増に伴う人件費の増加、アシストスーツ等の研究開発費及び2019年6月12日の新規上場に伴う費用の増加によるものであります。

その結果、営業利益は、前連結会計年度と比較して120百万円増加し756百万円（前年同期比18.9%増）となりました。

(営業外損益・経常利益)

当連結会計年度における営業外損益は、保険解約返戻金及び受取補償金が増加したこと等により前連結会計年度と比べて84百万円増加しました。

その結果、経常利益は、営業利益及び営業外損益の増加により前連結会計年度と比較して204百万円増加し1,008百万円（前年同期比25.5%増）となり、売上高経常利益率は8.6%となりました。

(特別損益・親会社株主に帰属する当期純利益)

当連結会計年度の特別損益は、前連結会計年度で認識した投資有価証券の売却益及び過年度の勤務期間に係る退職給付費用の計上がなかったこと等により、前連結会計年度と比較して79百万円減少し、法人税等が増加しました。

その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、573百万円（前年同期比1.1%増）となりました。

2) 財政状態

(資産)

当連結会計年度末における流動資産は5,264百万円となり、前連結会計年度末に比べ25百万円増加いたしました。これは主に商品が103百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が176百万円増加したことによるものであります。固定資産は11,618百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,515百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が2,702百万円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は16,882百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,540百万円増加いたしました。

(負債)

当連結会計年度末における流動負債は5,201百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,080百万円増加いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が1,088百万円増加したことによるものであります。また固定負債は5,825百万円となり、前連結会計年度末に比べ274百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が343百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は11,026百万円となり、前連結会計年度末に比べ805百万円増加いたしました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は5,856百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,735百万円増加いたしました。これは主に2019年6月12日に東京証券取引所市場第二部へ上場したことに伴う自己株式の処分をしたことによる1,172百万円の増加、及び利益剰余金の増加570百万円によるものであります。

3) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

b. 当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載しております。

c. 当社グループの資本の財源及び資金の流動性

当社グループの主な資金需要は、物流事業におけるレンタル資産（パレット等物流機器）の取得に係る設備投資の資金であります。資金需要につきましては、営業活動によるキャッシュ・フローのほか、金融機関からの借入による資金調達等にて対応しております。

d. セグメントごとの経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

セグメントごとの経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

2019年9月1日より、コネクティッド事業本部のIoT事業部をサービスの内容により物流IoT事業部とICT事業部に分割し、物流IoT事業部を物流事業本部へ移管しました。

（物流事業）

少子高齢化を背景にしたトラックドライバー不足など、いわゆる「物流クライシス」の状況が続く中、物流の効率化・省力化に対する関心は引き続き高くなっております。このような環境の中、堅調な保管用パレットの利用に加え、家庭紙メーカーの共同利用・共同回収をはじめとした輸送用パレットの利用増加を見込んでおります。また、2019年9月4日に発表したアシストスーツの新商品「サポートジャケットEp+ROBO」や物流IoTソリューションを総合的に提案することで、新しい付加価値を提供してまいります。

（コネクティッド事業）

ICT事業では、遠隔監視ソリューションに特化し、HACCPなど新しい分野での導入を推進してまいります。また、ビークルソリューション事業では、「所有」から「利用」へという大きなトレンドを背景に、カーシェアリングソリューションの事業拡大を継続するとともに、それらを支える次世代システムの開発を行ってまいります。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

当社グループは、様々な顧客ニーズに迅速に応えるため技術・マーケティング部を設置しております。技術・マーケティング部は、自社開発及び研究開発受託企業及び製造受託企業を積極的に活用することで、効率的な研究開発体制を構築しております。主な研究開発活動は、物流事業では、アシストスーツの開発・スマートパレットの高機能化等、全社共通では、ドローンを利用した新サービス開発等を行っております。

なお、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

当連結会計年度の研究開発費の総額は、195百万円であります。セグメント別の内訳は、物流事業110百万円、コネクティッド事業19百万円、全社共通の研究開発費65百万円であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、事業運営に伴う設備の更新を継続的に実施しております。レンタル資産（パレット等物流機器）を毎期一定額購入しており、当連結会計年度における全社のレンタル資産購入額は4,451百万円でした。更に、物流事業におけるレンタルシステムのバージョンアップ等、コネクティッド事業における顧客向けソフトウェア開発等、及び全社に共通する無線LAN設備工事等により、それぞれ39百万円、60百万円及び55百万円を投資しており、全社の設備投資の総額は4,605百万円になりました。

また、当連結会計年度において、経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2019年8月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 (人)	
			レンタル資 産	建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	その他		合計
宇部本社・東京本社 ほか12営業所 (山口県宇部市・東京都 千代田区等)	物流事業・コ ネクティッド 事業	レンタル資産 (パレット等 物流機器 等)・事務管 理施設・ 販売設備	8,124	122	36	25 (872.59)	26	8,335	169
市原デポ ほか2拠点 (千葉県市原市等)	物流事業	自社デポ	-	831	69	928 (29,626.05)	1	1,832	-

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
 2. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。
 3. 従業員数は正社員の就業人員（社外から当社への出向者を含む。）であり、臨時雇用者数（人材会社からの派遣社員等）は、従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

(2) 国内子会社

2019年8月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内 容	帳簿価額（百万円）				従業員数 (人)	
				建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	その他		合計
ウベパレット サービス(株)	本社 (山口県宇部市)	物流事業	自社デポ	25	2	132 (22,778.91)	0	161	12

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
 2. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。
 3. 従業員数は正社員の就業人員（グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、臨時雇用者数（人材会社からの派遣社員等）は、従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

事業の継続発展のためレンタル資産（パレット等物流機器等）の動向を考慮しつつ増備並びに更新を進めてまいります。

（1）重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額 (百万円)		資金調達 方法	着手及び完了 予定年月		完成後の 増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
提出会社 宇部本社・ 東京本社 ほか12営業 所	山口県宇部 市・東京都 千代田区等	物流事業・ コネク テッド事 業	レンタル資産 (パレット等 物流機器等)	4,580	-	自己資金、 借入金及び 自己株式処 分資金	2019年 9月	2020年 8月	レンタル資 産（パレッ ト等物流機 器）の調達 枚数660千枚 等
提出会社 三木デポ	兵庫県三木 市	物流事業	建物及び構築 物等	452	-	自己資金及 び借入金	2020年 5月	2021年 7月	三木デポの パレット保 管能力向上 のため増設
提出会社 自社デポの 新設	中部地区又 は北関東地 区	物流事業	土地、建物及 び構築物等	1,470	-	自己資金及 び借入金	2020年 6月	2022年 5月	中部地区又 は北関東地 区のパレッ ト保管能力 向上のため 新設

（注） 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

（2）重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,000,000
計	6,000,000

(注) 2019年1月21日開催の取締役会決議により、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の株式分割を行っております。これにより、発行可能株式総数は5,700,000株増加し、6,000,000株となっております。

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2019年8月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月28日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	1,532,000	1,532,000	東京証券取引所 (市場第二部)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
計	1,532,000	1,532,000	-	-

(注) 1. 2019年1月21日開催の取締役会決議により、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の株式分割を行っております。これにより、発行済株式総数は1,455,400株増加し、1,532,000株となっております。

2. 2019年1月21日開催の臨時株主総会決議により、2019年2月28日付で1単元を100株とする単元株制度を採用しております。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2014年9月1日 (注)1	-	76,600	50,000	96,000	-	-
2019年2月28日 (注)2	1,455,400	1,532,000	-	96,000	-	-

(注) 1. 資本剰余金の資本組み入れによる資本金の増加であります。

2. 2019年1月21日開催の取締役会決議により、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の株式分割を行っております。これにより、発行済株式総数は1,455,400株増加し、1,532,000株となっております。

(5) 【所有者別状況】

2019年8月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	2	22	21	13	-	722	780	-
所有株式数(単元)	-	34	534	487	1,372	-	12,889	15,316	400
所有株式数の割合(%)	-	0.22	3.49	3.18	8.96	-	84.15	100	-

(注) 自己株式32株は、「個人その他」に0単元、「単元未満株式の状況」に32株含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

2019年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
酒田義矢	山口県宇部市	767	50.11
酒田三男	山口県宇部市	91	5.94
酒田加代子	山口県宇部市	64	4.18
酒田健治	東京都渋谷区	42	2.74
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社)	25 Cabot Square, Canary Wharf, London E14 4QA, U.K. (東京都千代田区大手町1丁目9番7号 大手町フィナンシャルシティ サウスタワー)	39	2.58
ユーピーアール従業員持株会	東京都千代田区内幸町1丁目3番2号 内幸町東急ビル12階	39	2.57
上田八木短資株式会社	大阪府大阪市中央区高麗橋二丁目4番2号	31	2.02
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB U.K. (東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー)	29	1.91
CREDIT SUISSE AG, DUBLIN BRANCH PRIME CLIENT ASSET EQUITY ACCOUNT (常任代理人 クレディ・スイス証券株式会社)	KILMORE HOUSE, PARK LANE, SPENCER DOCK. DUBLIN IRELAND DUBLIN1 (東京都港区六本木1丁目6番1号 泉ガーデンタワー)	23	1.52
BARCLAYS CAPITAL SECURITIES LIMITED (常任代理人 バークレイズ証券株式会社)	1 CHURCHILL PLACE CANARY WHARF LONDON E14 5HP UNITED KINGDOM (東京都港区六本木6丁目10番1号)	15	1.02
計	-	1,142	74.59

(注) 前事業年度末において主要株主であった酒田三男は、当事業年度末現在では主要株主ではなくなりました。

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

2019年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 -	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,531,600	15,316	同上
単元未満株式	普通株式 400	-	-
発行済株式総数	1,532,000	-	-
総株主の議決権	-	15,316	-

- (注) 1. 自己株式32株は、「単元未満株式」に32株含めて記載しております。
 2. 2019年1月21日開催の取締役会決議により、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の株式分割を行っております。これにより、発行済株式総数は1,455,400株増加し、1,532,000株となっております。

【自己株式等】

2019年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ユーピーアール株	山口県宇部市寿町三丁目5番26号	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

- (注) 2019年1月21日開催の取締役会決議により、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の株式分割を行っております。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	32	176,000
当期間における取得自己株式	26	151,060

(注) 当期間における取得自己株式は、2019年11月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	384,000	1,172,160,000	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	32	-	58	-

(注) 2019年1月21日開催の取締役会決議により、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の株式分割を行っております。これにより、「当事業年度」及び「当期間」における「保有自己株式数」は、株式分割後の株式数を記載しております。

3【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要施策の一つと認識しております。日常の事業運営に必要な運転資金と将来の事業展開のための内部留保を確保し、健全な財務体質を維持しつつ、当面は連結配当性向10%を目処とし、将来的には連結配当性向30%を目標としております。

内部留保資金につきましては、事業の継続的な拡大発展を実現させるための資金として、有効に活用していく方針であります。

なお、期末配当は8月31日、中間配当は2月末日をそれぞれ基準日とし、このほか基準日を定めて剰余金の配当をすることができると定款に定めておりますが、当社は剰余金を配当する場合には、年1回の期末配当を基本としております。

また、経営の機動性と柔軟性の向上を図り、もって株主利益の向上に資するため、「剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって定める」旨を定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、通期の業績を踏まえ、1株当たり40円の配当を実施いたしました。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2019年10月15日 取締役会	61,278	40

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

当社及び当社の子会社からなる当社グループは、3つの経営理念（わが社の事業原点：パレットを通じ人々の生活を便利にすること、わが社の目指す企業像：地球と人を尊重する会社、わが社の求める社員像：情熱あふれ常にチャレンジする人材）を掲げ、「社業を通じ社会に貢献する」ことを社是としています。

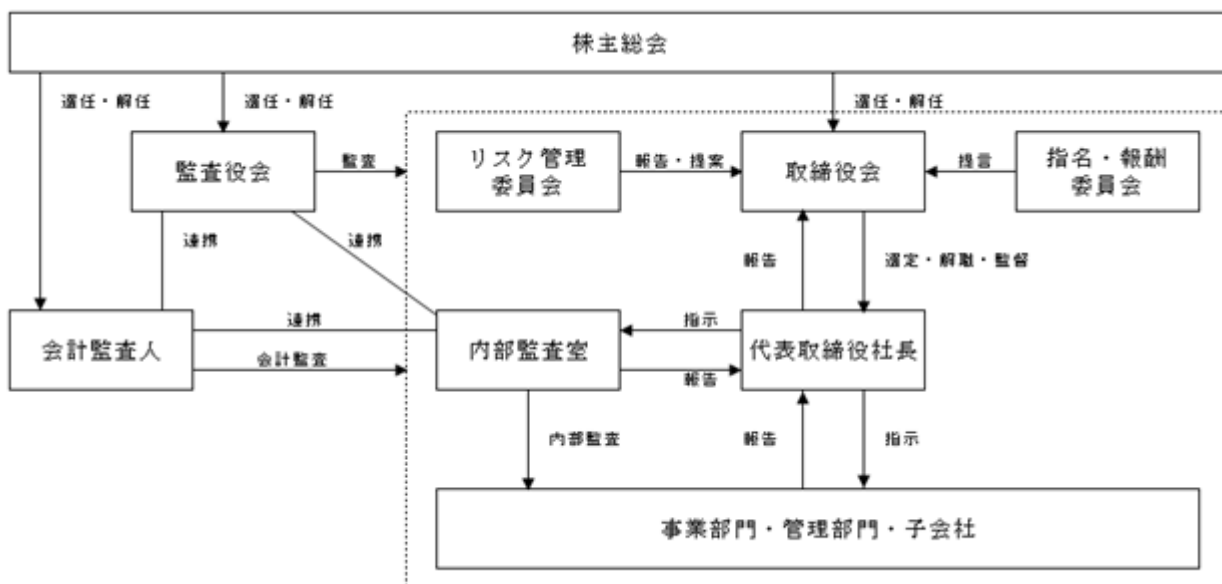
当社は、この社是のもと、実効性のあるコーポレート・ガバナンス体制の構築・強化が経営の重要課題であると認識し、顧客、株主、取引先、従業員、地域社会をはじめとする様々なステークホルダーとの信頼関係を築き、透明性の高い効率的な経営に努め、グループ一体となって持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図ってまいります。

企業統治の体制

当社グループでは、法令・定款のみならず、社内規程・マニュアルといった社内ルール、企業倫理（モラル）といった範囲まで含めたコンプライアンスの徹底を図ることを事業運営の基盤としたうえで、当社グループ各社を対象として「行動指針」を定め、当社グループ及び役員・従業員が本指針を積極的に実践することにより、社会的役割と責任を果たしていくように努めるとともに、コーポレート・ガバナンスの機能を高めるための諸施策を実施することにより、健全かつ効率的なグループ運営を図っております。

(i) 企業統治の体制及び当該体制を採用する理由

当社の企業統治の体制は、以下のとおりであります。



当社は、取締役会と監査役会という企業統治の基礎となる機関のほか、以下に記載の各種会議体や委員会の設置等を通じて、コーポレート・ガバナンスの充実を図っております。

1) 取締役会

当社の取締役会は、取締役9名（うち社外取締役3名）で構成され、監査役3名（うち社外監査役3名）が参加し、毎月1回、定時取締役会を、その他必要に応じて、適宜、臨時取締役会を開催しております。取締役会は、経営執行及び監督の最高機関であり、取締役会では、重要事項の決議、業績の状況及び業務執行の状況等の報告がなされるとともに、代表取締役社長及び取締役の業務執行に関して監督がなされております。当社では、社外取締役3名（独立役員届出）を選任することで、会社の指揮命令系統から独立した立場からの公正な判断、経営上有益な助言や経営監督を行える体制の構築に努めております。

(取締役会構成員の氏名等)

議長：代表取締役社長 酒田義矢

構成員：専務取締役 酒田健治、常務取締役 中村康久、常務取締役 大矢隆司、取締役 町田敏明、取締役 高井健介、社外取締役 有宗政和、社外取締役 土田亮、社外取締役 麓幸子、常勤監査役 斎藤安弘、社外監査役 松倉稔、社外監査役 鈴木邦成

2) 監査役会

当社の監査役会は、監査役3名(うち社外監査役3名)によって構成され、毎月1回定時監査役会を、その他必要に応じて、適宜、臨時監査役会を開催しております。監査役会は、経営全般及び個別案件に関して公正不偏の立場で意見交換を行うとともに、内部統制システムの整備運用状況を含め、取締役の職務の執行を監査しており、監査役会では、監査方針、監査計画、監査の方法等を決定するとともに、監査結果の報告内容について協議を行っております。さらに、監査役会は、代表取締役社長と定期的に意見交換を行うことで相互認識を深めております。当社では、社外監査役3名(独立役員届出)を選任することで、会社の利害関係から独立した立場からの経営上有益な助言や経営監督を行える体制の構築に努めております。

監査役は、定時・臨時取締役会への参加、計算書類等の記載事項等についての確認等を通じて、取締役の業務執行状況、内部統制の整備運用状況、財産管理状況等について監査を実施しております。

また、常勤監査役は、全社月次報告会、予算・中計検討会等の重要な会議に出席し、取締役の業務執行状況を監査するとともに、適宜、その状況を監査役会に報告しております。

(監査役会構成員の氏名等)

議長：常勤監査役 斎藤安弘

構成員：社外監査役 松倉稔、社外監査役 鈴木邦成

3) 会計監査人

当社は、EY新日本有限責任監査法人と監査契約を締結し、必要に応じ適宜相談を行い、適切な監査が実施されております。

4) 内部監査体制

当社では代表取締役社長の直属組織として内部監査室を設置しております。内部監査室は、実務経験を積むことによって培われた専門的な知識を有する従業員が組織の中で独立した立場で監査を実施しております。業務活動が法令・定款及び諸規程等に準拠し、かつ経営目的達成のため、合理的・効率的に運営されているかを監査するとともに、会計記録が会計に関する基準及び「経理規程」などに準拠して正確に処理され、かつ各種資産の管理及び保全が適正に行われているかを監査しております。このような監査を通じて、不正・誤謬の防止、業務活動の改善・向上等を目的として、内部統制及びリスク管理体制等を監査しております。

5) 全社月次報告会

全社月次報告会は、代表取締役社長を議長とし、取締役・監査役(可能な限り社外取締役及び社外監査役を含む)、事業部門・管理部門の部門長で構成され、原則として毎月1回開催し、経営にかかる案件や月次の業績状況の報告を行う場としております。

6) 各種委員会、会議体の設置

その他、当社グループでは以下のような会議体、委員会を設置し、コーポレート・ガバナンスの充実を図っております。

(指名・報酬委員会)

当社は取締役9名のうち3名が独立社外取締役であり、取締役会の過半数に達していないため、指名・報酬委員会を設置しており、取締役の指名・報酬等については指名・報酬委員会の提言に基づき取締役会・代表取締役が決定しております。

(指名・報酬委員会構成員の氏名等)

委員長：社外取締役 有宗政和

構成員：代表取締役社長 酒田義矢、社外取締役 土田亮、社外取締役 麓幸子

(リスク管理委員会)

当社は、当社グループのリスクマネジメントの基本的な考え方、活動の枠組み及びマネジメント体制を明確にし、会社全体及び個々の組織がリスクへ適正な対応を行い、当社グループの事業活動及び組織運営の発展と安定化を図ることを目的とした「リスク管理規程」を制定するとともに、リスクの分析及び評価、リスクの対応方針の策定、リスクマネジメント体制の運用における定期的な確認を行うリスク管理委員会を設置しております。本委員会は、代表取締役社長を委員長とし、取締役・監査役・内部監査室長によって構成され、原則として四半期に1回開催しております。

(リスク管理委員会構成員の氏名等)

委員長：代表取締役社長 酒田義矢

構成員：専務取締役 酒田健治、常務取締役 中村康久、常務取締役 大矢隆司、取締役 町田敏明、取締役 高井健介、社外取締役 有宗政和、社外取締役 土田亮、社外取締役 麓幸子、常勤監査役 斎藤安弘、社外監査役 松倉稔、社外監査役 鈴木邦成、内部監査室長

(予算・中計検討会)

予算・中計検討会は、代表取締役社長を議長とし、常勤取締役・常勤監査役、事業部門・管理部門の部門長によって構成されております。会議での議論を通し各部門及び当社グループの中期経営計画及び予算を検討しております。

当社では、以上のような企業統治の体制を構築・維持することにより、コーポレート・ガバナンスに期待されている「適正かつ効率的な業務執行」と「適切な監督機能」を実現できるものと考えていることから、現在の体制を採用しております。

() 内部統制システムの整備の状況

当社が制定している内部統制システムに関する基本方針は、以下のとおりです。

- 1) 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制（会社法第362条第4項第6号、会社法施行規則第100条第1項第4号）
 - イ 当社は、社是、経営理念、及び行動指針を、当社及び子会社の全ての役員・従業員が法令、定款及び社会規範を遵守した行動をとるための行動規範とする。
 - ロ 総務人事部がコンプライアンスを担当し、当社及び子会社の全ての役員・従業員の法令遵守の取組を推進する。また、「コンプライアンス規程」を定め、同部を中心にその遵守の重要性につき繰り返し情報発信することにより、その周知徹底を図る。
 - ハ 内部監査室は、コンプライアンスの状況を監査する。重要事項については、取締役会に報告する。
 - ニ 法令及び定款に違反する行為等を発見した場合の報告体制として、内部通報窓口を設置する。
- 2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制（会社法施行規則第100条第1項第1号）
 - イ 取締役の職務の執行に係る情報は、法令及び「文書管理規程」に基づき、文書又は電磁的媒体に適切に記録・保存する。
 - ロ 取締役及び監査役は、必要に応じ、取締役の職務の執行に係る情報が記載された文書等を閲覧できる。
- 3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制（会社法施行規則第100条第1項第2号）
 - イ 「リスク管理規程」に基づき、業務執行に係るリスクの把握、管理及び危機発生に備えた対応を行う。
 - ロ リスク管理委員会は、リスク管理の全社的推進とリスク管理に必要な情報の共有化を行い、必要に応じて取締役会に対し、リスク管理に関する活動状況を報告し、提案を行う。
 - ハ 重大な危機が発生した場合には、代表取締役社長を委員長とするリスク管理委員会を速やかに開催し、危機への対応と速やかな収束に向けて活動する。
- 4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制（会社法施行規則第100条第1項第3号）
 - イ 取締役の職務権限と担当業務を明確にするため、「取締役会規程」の他、「組織規程」、「業務分掌規程」、「決裁権限規程」を制定し、必要に応じ定期的な見直しを行う。
 - ロ 取締役会は、「取締役会規程」に基づき月1回開催するほか、必要に応じて臨時開催する。
- 5) 当社及び子会社からなる企業グループにおける業務の適正を確保するための体制（会社法施行規則第100条第1項第5号）
 - イ 当社及び子会社の業務適正確保の観点から、当社のリスク管理体制、コンプライアンス体制をグループ全体に適用するものとし、必要な子会社への指導、支援を実施する。
 - ロ 内部監査室は定期的に当社及び子会社の内部監査を実施し、当社及び子会社の内部統制の有効性と妥当性を確保する。また監査結果については、社長に報告する。
 - ハ 「関係会社管理規程」を定め、一定の経営上の重要事項については機関決定前に当社の承認を求め、又は報告することを義務付けることとし、一定の基準を満たすものは当社の取締役会決議事項とする。
- 6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、その使用人の取締役からの独立性に関する事項並びにその使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項（会社法施行規則第100条第3項第1号、会社法施行規則第100条第3項第2号、会社法施行規則第100条第3項第3号）
 - イ 当社は、監査役がその職務を補助する従業員を配置していないが、監査役から要請があった場合は、速やかに適切な人員配置を行う。
 - ロ 監査役がその職務を補助すべき従業員の異動・評価等については、あらかじめ監査役の同意を要することとする。
 - ハ 監査役がその職務を補助すべき従業員は、監査役以外の者からの指揮命令を受けない。

- 7) 監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制並びに監査役への報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制(会社法施行規則第100条第3項第4号、会社法施行規則第100条第3項第5号)
- イ 当社及び子会社の役員・従業員は、監査役からの要請に応じ、職務の執行に関する事項を報告する。
- ロ 内部監査室は、当社及び子会社に対して実施した内部監査の結果を、定期的に報告する。
- ハ 内部通報制度の担当部署である総務人事部は、当社グループの内部通報の状況について、監査役に定期的に報告する。
- ニ 監査役への報告を理由として取締役及び従業員が不利な取扱いを受けないことを保障する。
- 8) 監査役職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項(会社法施行規則第100条第3項第6号)
- 監査役がその職務の執行について支出した費用の償還などの請求をしたときは、当該費用が監査役職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに処理する。
- 9) その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制(会社法施行規則第100条第3項第7号)
- イ 監査役は、重要な意思決定の過程及び業務執行の状況を把握する為に取締役会等の会議に出席する。
- ロ 監査役は、取締役や経営陣とのミーティング、営業所や子会社への往査を必要に応じ実施する。月1回定時に監査役会を開催する他、必要に応じ臨時に開催し、監査実施状況等について情報交換及び協議を行うとともに、会計監査人から定期的に会計監査に関する報告を受け、意見交換を行う。
- 10) 反社会的勢力排除に向けた基本方針及び体制
- 当社は、反社会的勢力・団体・個人とは一切関わりを持たず、不当・不法な要求にも応じないことを基本方針とする。その旨を役員及び従業員に周知徹底するとともに、平素より関係行政機関などからの情報収集に努め、事案の発生時には関係行政機関や法律の専門家と緊密に連絡を取り、組織全体として速やかに対処できる体制を整備する。

() 責任限定契約の概要

当社と各社外取締役及び各社外監査役は、当社定款及び会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、会社法第425条第1項に定める額としております。

なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役及び社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について、善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

取締役の定数について

当社の取締役は、15名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件について

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また累積投票によらない旨を定款で定めております。

剰余金の配当等の決定機関について

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

取締役及び監査役の責任免除の決定機関について

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役及び監査役の損害賠償責任を、法令の限度内において、取締役会決議によって免除することができる旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件について

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

自己株式の取得について

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会決議によって、市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

支配株主との取引を行う際における少数株主の保護についての方策

当社は、支配株主との取引については基本的に行わない方針ですが、当社と支配株主が取引を行う場合には、少数株主保護の観点から、事前にと取締役会において当該取引の事業上の必要性や合理性、一般の取引条件と比較した妥当性等を慎重に検討する予定です。

(2) 【 役員の状況】

役員一覧

男性11名 女性1名 (役員のうち女性の比率 8.3%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長	酒田 義矢	1964年 5月30日生	1988年 4月 積水化学工業(株)入社 1994年11月 ウベパレット(株) (現当社) 専務取締役 1998年11月 同社 (現当社) 代表取締役社長 (現任) 2005年 9月 ウベパレットサービス(株) 代表取締役社長 (現任) 2013年11月 (株)レノファ山口 社外取締役 (現任)	(注) 3	767,600
専務取締役	酒田 健治	1955年 9月23日生	1979年 4月 三菱商事(株)入社 1996年11月 ウベパレット(株) (現当社) 専務取締役 (現任)	(注) 3	42,000
常務取締役 コネクティッド事業本部長 兼 技術・マーケティング部担当	中村 康久	1956年12月 3 日生	1980年 4月 日本電信電話公社 (現日本電 信電話(株)) 入社 1998年12月 NTTドコモ(株) 転籍 2007年 7月 同社第二法人営業部マシニコ ム営業企画部長 2011年10月 ロケーション(株) 代表取締役社長 2011年10月 当社取締役IT事業統括本部 (現コネクティッド事業本 部) 長 2014年10月 当社常務取締役IT事業統括本 部 (現コネクティッド事業本 部) 長 2017年 9月 当社常務取締役コネクティッ ド事業本部長兼技術・マーケ ティング部担当 (現任)	(注) 3	7,000
常務取締役 物流事業本部長	大矢 隆司	1954年 4月28日生	1979年 4月 三菱商事(株)入社 2004年 4月 同社物流事業部長 2008年12月 同社不定期船事業部長 2010年 6月 瀬戸埠頭(株) 代表取締役社長 2015年 7月 当社入社 物流システム営業 本部 (現物流事業本部) 長 2016年10月 当社取締役物流営業本部 (現 物流事業本部) 長 2017年 9月 当社常務取締役物流事業本部 長 (現任)	(注) 3	2,000
取締役 総務人事部長	町田 敏明	1957年 5月28日生	1980年 4月 (株)三和銀行 (現(株)三菱UFJ 銀行) 入行 2003年11月 同行五反田ビジネスバンキン グ営業部長 2006年 1月 同行五反田兼三田法人営業推 進支社長 2006年 9月 同行下赤塚駅前支店長 2011年 5月 当社入社 営業推進室長 2014年10月 当社取締役総務・人事本部 (現総務人事部) 長 (現任)	(注) 3	4,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 理財部長	高井 健介	1976年12月22日生	2007年6月 公認会計士登録 2010年8月 ㈱アガットコンサルティング 入社 2011年4月 当社入社 経理・財務本部 (現理財部)長 2017年11月 当社取締役理財部長(現任)	(注) 3	1,000
取締役	有宗 政和	1955年12月15日生	1979年4月 丸紅㈱入社 2004年4月 同社ゴム部長 2009年4月 同社欧州支配人補佐兼丸紅欧 州会社副社長 2013年4月 同社執行役員 ライフスタイ ル・紙パルプ部門長 2016年6月 丸紅セーフネット㈱ 代表取締役社長 2017年11月 当社社外取締役(現任) 2019年6月 (一社)日本養鶏協会 顧問 (現任)	(注) 3	-
取締役	土田 亮 (戸籍上の氏名: 寺西 亮)	1968年7月4日生	2010年1月 弁護士登録(第二東京弁護士 会) 2010年1月 法律事務所フロンティア・ ロー弁護士 2014年4月 専修大学法学部教授(現任) 2015年6月 ㈱りそな銀行社外監査役 2017年11月 当社社外取締役(現任) 2018年12月 ㈱ノエビアホールディング ス 社外監査役(現任) 2019年6月 ㈱りそな銀行社外取締役(現 任)	(注) 3	-
取締役	麓 幸子 (戸籍上の氏名: 田中 幸子)	1962年1月12日生	1984年4月 ㈱日経BP入社 2006年4月 同社 日経ウーマン編集長 2012年6月 同社 ビズライフ局長 2016年3月 同社 執行役員 2018年3月 同社 日経BP総研フェロー 2019年3月 (一社)敬友 代表理事(現 任) 2019年4月 ㈱なが岡 取締役(現任) 2019年4月 ㈱でんろく 取締役(現任) 2019年4月 大館市の未来を創る会代表 (現任) 2019年11月 当社社外取締役(現任)	(注) 3	-
常勤監査役	斎藤 安弘	1957年8月9日生	1982年4月 電気化学工業㈱(現デンカ ㈱)入社 2013年6月 同社内部監査室担当部長 2015年3月 同社特混海外推進室担当部長 2016年11月 当社常勤監査役(現任)	(注) 4	-
監査役	松倉 稔	1961年7月24日生	1985年4月 松倉一悦税理士事務所入所 1990年3月 税理士登録 2012年10月 当社社外監査役(現任)	(注) 4	-
監査役	鈴木 邦成	1959年8月1日生	2013年4月 日本大学生産工学部マネジメ ント工学科准教授 2014年4月 日本大学生産工学部マネジメ ント工学科教授(現任) 2017年11月 当社社外監査役(現任)	(注) 4	-
計					823,600

- (注) 1. 取締役有宗政和、土田亮及び麓幸子は、社外取締役であります。
 2. 監査役斎藤安弘、松倉稔及び鈴木邦成は、社外監査役であります。
 3. 2019年11月27日開催の定時株主総会終結の時から、2020年8月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
 4. 2019年1月21日開催の臨時株主総会終結の時から、2022年8月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。

5. 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
前田 修志	1970年12月14日生	1999年4月 上智大学法学部嘱託助手 2002年4月 東亜大学法学部助教授 2007年4月 大宮法科大学院大学法務研究科准教授 2012年4月 甲南大学会計大学院准教授 2016年4月 専修大学大学院法務研究科准教授 2019年4月 専修大学大学院法務研究科教授(現任)	-

社外役員の状況

当社の社外取締役は3名、社外監査役は3名であります。

当社の社外取締役は、経営者としての経験・知見や、専門的な知識・経験及び他社で培われた豊富な経験と幅広い見識等に基づき、会社の指揮命令系統から独立した客観的・中立的な立場からの公正な判断、経営上有益な助言や経営監督の実現に努めております。また、当社の社外監査役は、税理士及び研究者としての経験・知見や、専門的な知識・経験等に基づき、会社の利害関係から独立した客観的・中立的な立場からの監査、経営上有益な助言や経営監督の実現に努めております。

社外取締役有宗政和は、経営者としての豊富な経験と幅広い見識を有しており、当社の経営全般について有益なアドバイスをいただくため社外取締役として選任しております。なお、当社と同氏及びその兼務先との間に、人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役土田亮は、弁護士としての豊富な経験と専門知識を有しており、主にコンプライアンスの観点からの有益なアドバイスをいただくため社外取締役として選任しております。なお、同氏は株式会社りそな銀行の社外取締役を兼務しており、同行は当社の借入先であります。当社と同行との取引関係は一般取引と同様であり特別な利害関係はありません。当社と同氏及びその他の兼務先との間に、人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役麓幸子は、他社で培われた豊富な経験と幅広い見識、また今までの視点とは違う面からの有益なアドバイスをいただくため社外取締役として選任しております。なお、当社と同氏及びその他の兼務先との間に、人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役斎藤安弘は、企業の実務を歴任し物流に関する相当程度の知見を有し、上場会社での内部監査経験に基づき、客観的・中立的な立場から経営の監視や適切なアドバイスをいただくため社外監査役として選任しております。なお、当社と同氏の間には、人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役松倉稔は、税理士としての高い専門性、財務及び会計に関する相当程度の知見に基づき、専門的見地から経営の監視や適切なアドバイスをいただくため社外監査役として選任しております。なお、当社と同氏及びその兼務先との間には、人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役鈴木邦成は、生産計画や販売計画等の生産工学の研究者としての専門的知見と大学教授としての経験に基づき、専門的見地から経営の監視や適切なアドバイスをいただくため社外監査役として選任しております。なお、当社と同氏及びその兼務先との間には、人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性について、経営者としての経験・知見や、専門的な知識・経験等を有する方で、かつ、当社との間に個人的な人的関係、資本的関係又は重要な取引関係その他の利害関係のない方を選任することを基本的な考え方としております。その際、一般株主と利益相反が生じる恐れのない者であるかを判断した上で、独立役員を選任することを基本方針としております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役は、内部監査室及び会計監査人より、監査計画及び監査結果について報告を受けるとともに、内部監査室及び会計監査人と適宜意見交換を行うことにより、それぞれの監査業務に役立てております。また、社外取締役は、取締役会において、監査役会から監査報告を受けております。加えて、社外取締役及び社外監査役は、リスク管理委員会に出席し、担当部門よりリスク管理とコンプライアンス活動の状況について報告を受けております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社の監査役会は、監査役3名（うち社外監査役3名）によって構成され、毎月1回定時監査役会を、その他必要に応じて、適宜、臨時監査役会を開催しております。監査役会は、経営全般及び個別案件に関して公正不偏の立場で意見交換を行うとともに、内部統制システムの整備運用状況を含め、取締役の職務の執行を監査しており、監査役会では、監査方針、監査計画、監査の方法等を決定するとともに、監査結果の報告内容について協議を行っております。さらに、監査役会は、代表取締役社長と定期的に意見交換を行うことで相互認識を深めております。当社では、社外監査役3名（独立役員届出）を選任することで、会社の利害関係から独立した立場からの経営上有益な助言や経営監督を行える体制の構築に努めております。

監査役は、定時・臨時取締役会への参加、計算書類等の記載事項等についての確認等を通じて、取締役の業務執行状況、内部統制の整備運用状況、財産管理状況等について監査を実施しております。

また、常勤監査役は、全社月次報告会、予算・中計検討会等の重要な会議に出席し、取締役の業務執行状況を監査するとともに、適宜、その状況を監査役会に報告しております。

なお、監査役松倉稔氏は、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

内部監査の状況

当社では代表取締役社長の直属組織として内部監査室を設置しております。内部監査室は、実務経験を積むことによって培われた専門的な知識を有する従業員で構成され、組織の中で独立した立場で監査を実施しております。業務活動が法令・定款及び諸規程等に準拠し、かつ経営目的達成のため、合理的・効率的に運営されているかを監査するとともに、会計記録が会計に関する基準及び「経理規程」等などに準拠して正確に処理され、かつ各種資産の管理及び保全が適正に行われているかを監査しております。このような監査を通じて、不正・誤謬の防止、業務活動の改善・向上等を目的として、内部統制及びリスク管理体制等を監査しております。

内部監査室は、事業年度毎に内部監査計画を定め、全部門（グループ会社を含みます。）を年1回監査しております。

内部監査室と監査役との連携状況については、積極的な情報交換・意見交換を行うことにより、監査の質の向上と効率化に努めております。そのために内部監査室は、監査役へ内部監査計画及び月次にて内部監査結果を報告し監査役との連携を図っております。

内部監査室と会計監査人の連携状況については、適宜監査結果の双方向的な情報交換により相互補完を行うことにより、それぞれの監査の質の向上と効率化が図られております。特に内部統制の整備・運用状況やその問題点について意見交換をすることにより、内部監査室としては、内部統制上の問題点や改善点等に関する情報を入手することができるため、内部統制の見直しが可能になるとともに、内部監査を効果的かつ効率的に実施することが出来ております。

会計監査の状況

a．監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

b．業務を執行した公認会計士

高橋 幸毅

小宮山 高路

c．監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、その他23名であります。

d．監査法人の選定理由と方針

当社の監査役会による監査法人の選定に関しては、品質管理体制、独立性及び専門性の有無、当社がグローバルに展開する事業分野への理解度、監査報酬等を総合的に検討を行い、選定しております。

EY新日本有限責任監査法人を監査法人として選定した理由は、上記選定方針から総合的に勘案した結果、当社の会計監査人として適任と判断したためであります。

当社の監査役会は、会社法第340条第1項各号による会計監査人の解任のほか、会計監査人が継続してその職務を遂行することに関して重大な疑義が発生した場合には、会社法第344条に定める手続きに従い、会計監査人の解任又は不再任について株主総会に付議する方針です。

e . 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、EY新日本有限責任監査法人に対して評価を行っております。同法人の監査の方法及び結果は相当であると認識しております。

監査報酬の内容等

a . 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	20,000	-	30,000	2,800
連結子会社	-	-	-	-
計	20,000	-	30,000	2,800

(注) 当連結会計年度における非監査業務に基づく報酬は、公募による自己株式処分及び売出に係るコンフォートレター作成業務について支払った対価であります。

b . 監査公認会計士等と同一ネットワークに属する組織に対する報酬 (a . を除く)

該当事項はありません。

c . その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d . 監査報酬の決定方針

当社は、監査公認会計士等の監査計画、監査内容、監査日数等の諸要素を勘案し、また、当社グループの事業規模等を考慮して監査報酬額を決定しております。

なお、監査報酬の決定にあたっては、監査役会の同意を得ております。

e . 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りなどが当社の事業規模や事業内容に適切であるかどうかについて必要な検証をした結果、妥当と判断したためであります。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社の役員報酬は、役員規程をもとに役位に従い、会社業績や経営内容、役員本人の成果・責任などを考慮した業績連動報酬以外の基本報酬（定期同額）、及び業績連動報酬（賞与）で構成されております。業績連動に係る指標は、税引前当期純利益及び営業利益であり、それぞれの対予算達成度に応じて、業務執行役員を対象に業績連動報酬（賞与）を決定しております。

また、社外取締役及び監査役は、定期同額の基本報酬のみとしております。

取締役の報酬限度額は、2018年11月22日開催の定時株主総会において、年額300,000千円（役員賞与含む。使用人兼務役員の使用人分給与は含まない。定款で定める取締役の員数は15名以内とする。提出日現在は9名。）と決議されております。各取締役の報酬等の配分につきましては役員規程に則り指名・報酬委員会が役員報酬案を代表取締役に提言し、決定しております。その裁量の範囲は、あらかじめ株主総会で決議された報酬の範囲内です。

取締役の報酬につきましては、2019年11月18日の指名・報酬委員会において審議いたしました。

当社の監査役の報酬限度額は、2017年11月17日開催の定時株主総会において、年額30,000千円（定款で定める監査役の員数は5名以内とする。提出日現在は3名。）と決議されております。各監査役の報酬等の配分につきましては、監査役会において決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	253,870	144,180	-	68,568	41,122	6
監査役 (社外監査役を除く。)	-	-	-	-	-	-
社外取締役	9,966	9,000	-	-	966	2
社外監査役	20,888	17,190	-	-	3,698	3

(注) 1. 報酬等の総額には、役員退職慰労引当金の当事業年度繰入額45,787千円が含まれております。

2. 取締役の報酬等の額には使用人兼務役員の使用人分給与は含まれておりません。

3. 上記の「賞与」は、当事業年度に係る役員賞与であります。

提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、取引先との良好な取引関係の維持・強化を図る目的で保有している株式を純投資目的以外の目的である投資株式（以下、「政策保有株式」）、それ以外の株式を純投資目的である投資株式と区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、2019年8月の取締役会において、個別の政策保有株式について政策保有の意義を検証し、上場企業の政策保有株式を保有しないことを基本方針とし、現在保有している上場企業の政策保有株式については、縮減する方向で決議しました。

なお、基本方針に従い、2020年8月期に入り売却を進めた結果、本報告書提出日現在、上場企業の政策保有株式は保有しておりません。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	3	16,371
非上場株式以外の株式 (注)	3	162,306

(注) 本報告書提出日現在、非上場株式以外の株式は保有しておりません。

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	3	5,287	持株会による定期定額購入

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報
 特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
セントラル硝子(株)	31,945	30,870	(保有目的)取引先として連携強化 (定量的な保有効果)(注) (株式数が増加した理由)持株会による 定期定額購入のため	無
	70,407	81,096		
(株)上組	28,604	27,650	(保有目的)取引先として連携強化 (定量的な保有効果)(注) (株式数が増加した理由)持株会による 定期定額購入のため	無
	71,195	62,378		
タカラスタANDARD (株)	12,287	12,100	(保有目的)取引先として連携強化 (定量的な保有効果)(注) (株式数が増加した理由)持株会による 定期定額購入のため	無
	20,703	21,829		

(注) 当社は、特定投資株式における定量的な保有効果の記載が困難であるため、保有の合理性を検証した方法について記載いたします。当社は、2019年8月の取締役会において、個別の政策保有株式について政策保有の意義を検証し、上場企業の政策保有株式を保有しないことを基本方針とし、現在保有している上場企業の政策保有株式については、縮減する方向で決議しました。

保有目的が純投資目的である投資株式
 該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年9月1日から2019年8月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年9月1日から2019年8月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、また、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等が行うセミナーに参加しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,054,563	3,023,321
受取手形及び売掛金	1,523,416	1,699,789
電子記録債権	164,127	90,583
リース債権及びリース投資資産	12,215	6,633
商品	277,805	174,336
原材料及び貯蔵品	8,449	14,652
未収還付法人税等	5,365	13,895
その他	200,657	253,689
貸倒引当金	7,595	12,303
流動資産合計	5,239,004	5,264,598
固定資産		
有形固定資産		
レンタル資産(純額)	5,398,841	8,188,008
建物及び構築物(純額)	1,020,119	1,980,897
機械装置及び運搬具(純額)	119,255	109,996
土地	1,086,632	1,086,632
建設仮勘定	5,780	61,437
その他	144,230	50,617
有形固定資産合計	7,774,860	10,477,589
無形固定資産	417,518	338,729
投資その他の資産		
投資有価証券	260,457	234,946
繰延税金資産	241,249	222,558
その他	420,820	356,374
貸倒引当金	11,950	11,950
投資その他の資産合計	910,577	801,929
固定資産合計	9,102,957	11,618,248
資産合計	14,341,961	16,882,846

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,796,028	1,989,940
1年内返済予定の長期借入金	1,269,045	2,358,038
リース債務	6,170	-
未払法人税等	448,945	220,020
賞与引当金	236,619	217,440
役員賞与引当金	58,888	-
その他	305,499	415,808
流動負債合計	4,121,196	5,201,248
固定負債		
長期借入金	5,554,494	5,211,458
繰延税金負債	-	369
役員退職慰労引当金	385,258	431,045
退職給付に係る負債	147,010	168,441
資産除去債務	13,291	14,035
固定負債合計	6,100,054	5,825,350
負債合計	10,221,251	11,026,598
純資産の部		
株主資本		
資本金	96,000	96,000
資本剰余金	-	391,349
利益剰余金	4,753,950	5,324,164
自己株式	780,811	176
株主資本合計	4,069,139	5,811,337
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43,962	36,682
為替換算調整勘定	12,339	11,719
その他の包括利益累計額合計	31,622	24,963
非支配株主持分	19,947	19,947
純資産合計	4,120,710	5,856,248
負債純資産合計	14,341,961	16,882,846

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
売上高	10,367,224	11,671,483
売上原価	1 6,750,068	1 7,436,894
売上総利益	3,617,155	4,234,589
販売費及び一般管理費	2, 3 2,980,583	2, 3 3,477,594
営業利益	636,572	756,995
営業外収益		
受取利息	6	32
受取配当金	5,195	4,283
受取補償金	153,198	185,638
保険解約返戻金	-	70,349
その他	42,145	42,716
営業外収益合計	200,546	303,019
営業外費用		
支払利息	32,038	33,336
為替差損	-	14,285
その他	1,679	4,356
営業外費用合計	33,717	51,978
経常利益	803,401	1,008,037
特別利益		
固定資産売却益	4 793	4 1,322
投資有価証券売却益	175,979	-
特別利益合計	176,772	1,322
特別損失		
減損損失	5 62,011	5 74,719
退職給付費用	118,065	-
その他	1,921	11,781
特別損失合計	181,998	86,501
税金等調整前当期純利益	798,176	922,858
法人税、住民税及び事業税	473,785	326,837
法人税等調整額	242,559	22,936
法人税等合計	231,226	349,774
当期純利益	566,949	573,084
非支配株主に帰属する当期純利益	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	566,949	573,084

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
当期純利益	566,949	573,084
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	92,491	7,279
為替換算調整勘定	3,433	619
その他の包括利益合計	95,925	6,659
包括利益	471,024	566,424
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	471,024	566,424
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2017年9月1日 至 2018年8月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	96,000	4,189,870	780,811	3,505,059
当期変動額				
剰余金の配当		2,870		2,870
親会社株主に帰属する 当期純利益		566,949		566,949
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	564,079	-	564,079
当期末残高	96,000	4,753,950	780,811	4,069,139

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	136,454	8,905	127,548	19,947	3,652,556
当期変動額					
剰余金の配当					2,870
親会社株主に帰属する 当期純利益					566,949
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	92,491	3,433	95,925		95,925
当期変動額合計	92,491	3,433	95,925	-	468,154
当期末残高	43,962	12,339	31,622	19,947	4,120,710

当連結会計年度(自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	96,000	-	4,753,950	780,811	4,069,139
当期変動額					
剰余金の配当			2,870		2,870
親会社株主に帰属する 当期純利益			573,084		573,084
自己株式の処分		391,349		780,811	1,172,160
自己株式の取得				176	176
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	391,349	570,214	780,635	1,742,198
当期末残高	96,000	391,349	5,324,164	176	5,811,337

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	43,962	12,339	31,622	19,947	4,120,710
当期変動額					
剰余金の配当					2,870
親会社株主に帰属する 当期純利益					573,084
自己株式の処分					1,172,160
自己株式の取得					176
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	7,279	619	6,659		6,659
当期変動額合計	7,279	619	6,659	-	1,735,538
当期末残高	36,682	11,719	24,963	19,947	5,856,248

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	798,176	922,858
減価償却費	1,670,872	2,048,183
減損損失	62,011	74,719
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,763	4,708
賞与引当金の増減額(は減少)	13,480	19,178
役員賞与引当金の増減額(は減少)	58,888	58,888
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	63,272	45,787
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	147,010	21,430
受取利息及び受取配当金	5,202	4,315
保険解約返戻金	-	70,349
支払利息	32,038	33,336
固定資産売却損益(は益)	793	1,276
投資有価証券売却損益(は益)	175,979	-
売上債権の増減額(は増加)	252,388	105,384
たな卸資産の増減額(は増加)	248,076	56,910
仕入債務の増減額(は減少)	27,276	57,889
未払又は未収消費税等の増減額	14,910	104,240
その他	25,533	215,091
小計	2,150,420	2,887,681
利息及び配当金の受取額	5,202	4,315
利息の支払額	31,499	33,155
法人税等の支払額	31,235	560,495
法人税等の還付額	73,418	624
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,166,305	2,298,969
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,558,197	4,313,213
有形固定資産の売却による収入	793	1,538
無形固定資産の取得による支出	196,509	73,735
投資有価証券の取得による支出	4,713	5,287
投資有価証券の売却による収入	366,226	20,200
保険積立金の解約による収入	3,694	159,396
その他	12,868	24,701
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,401,573	4,235,803
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	1,000,000	2,240,000
長期借入金の返済による支出	1,449,045	1,494,043
自己株式の取得による支出	-	176
自己株式の売却による収入	-	1,172,160
配当金の支払額	2,870	2,870
財務活動によるキャッシュ・フロー	451,915	1,915,071
現金及び現金同等物に係る換算差額	60	9,478
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	312,877	31,241
現金及び現金同等物の期首残高	2,741,686	3,054,563
現金及び現金同等物の期末残高	3,054,563	3,023,321

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 6社

連結子会社の名称

ウベパレットサービス(株)

UPR Singapore Pte.Ltd.

UPR(Thailand)Co.,Ltd.

UPR Solution(Malaysia)Sdn. Bhd.

UPR VIETNAM CO.,LTD

UPR Services Inc.

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

会社名	決算日
UPR VIETNAM CO.,LTD	6月30日

連結財務諸表の作成にあたっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を基礎としております。

なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

たな卸資産

(イ) 商品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(ロ) 原材料及び貯蔵品

・ 原材料

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

・ 貯蔵品

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

(イ) レンタル資産

過去の実績に基づく見積耐用年数(5~10年)による定額法を採用しております。

(ロ) その他

当社及び国内連結子会社は定率法を、在外連結子会社は定額法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 7～50年

機械装置及び運搬具 8～17年

無形固定資産

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び一部の連結子会社において、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」
(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」
(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

1. 概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」（IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606）を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

2. 適用予定日

2022年8月期の期首より適用予定であります。

3. 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」157,898千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」241,249千円に含めて表示しております。

(連結貸借対照表関係)

1 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
圧縮記帳額	4,900千円	4,900千円
(うち、建物及び構築物)	(4,900)	(4,900)

2 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
減価償却累計額	19,226,715千円	20,388,620千円

3 当座貸越契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
当座貸越極度額の総額	6,400,000千円	10,800,000千円
借入実行残高	400,000	863,326
差引額	6,000,000	9,936,674

(連結損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損(は戻入額)が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
	12,657千円	5,348千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
従業員給料及び賞与	955,313千円	1,076,554千円
退職給付費用	51,153	54,886
賞与引当金繰入額	200,803	187,018
役員賞与引当金繰入額	56,112	-
役員退職慰労引当金繰入額	64,430	45,787
貸倒引当金繰入額	5,256	5,019

3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
	89,595千円	195,551千円

4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
機械装置及び運搬具	793千円	1,273千円
その他の有形固定資産	-	49
計	793	1,322

5 減損損失

前連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
東京都千代田区	事業用資産	レンタル資産、無形固定資産等
タイ王国バンコク都	事業用資産	その他の有形固定資産、無形固定資産

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、事業単位を基本単位としてグルーピングを行っており、連結子会社につきましては、会社単位を基本単位としてグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、事業用資産のうち、収益性が低下した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(62,011千円)として特別損失に計上しました。その内訳は、レンタル資産35,198千円、その他の有形固定資産3,086千円、無形固定資産23,727千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから、零としております。

当連結会計年度(自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
東京都千代田区	事業用資産	レンタル資産、無形固定資産等
タイ王国バンコク都	事業用資産	その他の有形固定資産

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、主として事業単位を基本単位としてグルーピングを行っており、連結子会社につきましては、会社単位を基本単位としてグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、事業用資産のうち、収益性が低下した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(74,719千円)として特別損失に計上しました。その内訳は、レンタル資産43,172千円、その他の有形固定資産1,811千円、無形固定資産29,735千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから、零としております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	34,554千円	11,139千円
組替調整額	175,979	-
税効果調整前	141,424	11,139
税効果額	48,933	3,859
その他有価証券評価差額金	92,491	7,279
為替換算調整勘定：		
当期発生額	3,433	619
為替換算調整勘定	3,433	619
その他の包括利益合計	95,925	6,659

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	76,600	-	-	76,600
合計	76,600	-	-	76,600
自己株式				
普通株式	19,200	-	-	19,200
合計	19,200	-	-	19,200

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年11月17日 定時株主総会	普通株式	2,870	50	2017年8月31日	2017年11月20日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年11月22日 定時株主総会	普通株式	2,870	利益剰余金	50	2018年8月31日	2018年11月26日

当連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式（注）1. 2.	76,600	1,455,400	-	1,532,000
合計	76,600	1,455,400	-	1,532,000
自己株式				
普通株式（注）1. 3. 4.	19,200	364,832	384,000	32
合計	19,200	364,832	384,000	32

（注）1. 当社は、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。

2. 普通株式の発行済株式総数の増加1,455,400株は株式分割によるものであります。

3. 普通株式の自己株式数の増加364,832株は、株式分割による増加364,800株、単元未満株式の買取りによる増加32株であります。

4. 普通株式の自己株式数の減少384,000株は公募による自己株式の処分によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2018年11月22日 定時株主総会	普通株式	2,870	50	2018年8月31日	2018年11月26日

（注）当社は、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。「1株当たり配当額」につきましては、当該株式分割前の金額を記載しております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2019年10月15日 取締役会	普通株式	61,278	利益剰余金	40	2019年8月31日	2019年11月11日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 2017年9月1日 至 2018年8月31日）	当連結会計年度 （自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）
現金及び預金勘定	3,054,563千円	3,023,321千円
現金及び現金同等物	3,054,563	3,023,321

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(貸主側)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(借主側)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
1年内	2,644	6,778
1年超	5,052	17,903
合計	7,697	24,681

3. 転リース取引

転リース取引に該当し、かつ、利息相当額控除前の金額で連結貸借対照表に計上している額

(1) リース投資資産

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
流動資産	6,170	-

(2) リース債務

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
流動負債	6,170	-

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入れにより資金を調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の債務不履行による信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが4ヶ月以内の支払期日であります。

長期借入金には主に設備投資に係る資金調達であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図ることによりリスク低減を図っております。また、市場リスクの管理に関し、投資有価証券については、主として株式であり、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、かつ、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理に関し、担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

前連結会計年度(2018年8月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	3,054,563	3,054,563	-
(2) 受取手形及び売掛金	1,523,416	1,523,416	-
(3) 投資有価証券	165,303	165,303	-
資産計	4,743,283	4,743,283	-
(1) 買掛金	1,796,028	1,796,028	-
(2) 長期借入金	6,823,539	6,824,230	691
負債計	8,619,567	8,620,258	691

1年内返済予定の長期借入金を含んでおります。

当連結会計年度(2019年8月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	3,023,321	3,023,321	-
(2) 受取手形及び売掛金	1,699,789	1,699,789	-
(3) 投資有価証券	162,306	162,306	-
資産計	4,885,418	4,885,418	-
(1) 買掛金	1,989,940	1,989,940	-
(2) 長期借入金	7,569,496	7,581,363	11,867
負債計	9,559,436	9,571,303	11,867

1年内返済予定の長期借入金を含んでおります。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負 債

(1) 買掛金

買掛金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金

借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
非上場株式	24,312	16,371
投資事業有限責任組合への出資	70,841	56,268

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。なお、非上場株式については前連結会計年度において537千円、当連結会計年度において7,941千円の減損処理をそれぞれ行っております。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額
 前連結会計年度(2018年8月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,054,140	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,523,416	-	-	-
合計	4,577,556	-	-	-

当連結会計年度(2019年8月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,022,841	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,699,789	-	-	-
合計	4,722,631	-	-	-

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額
 前連結会計年度(2018年8月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	1,269,045	2,164,732	996,912	914,602	655,852	822,396

当連結会計年度(2019年8月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	2,358,038	1,133,184	1,129,654	870,904	625,290	1,452,426

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2018年8月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	165,303	103,047	62,256
	小計	165,303	103,047	62,256
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		165,303	103,047	62,256

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額95,153千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2019年8月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	162,306	108,335	53,971
	小計	162,306	108,335	53,971
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		162,306	108,335	53,971

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額72,639千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	335,065	175,979	-
合計	335,065	175,979	-

当連結会計年度(自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、その他有価証券で時価のない非上場株式について537千円減損処理を行っております。

当連結会計年度において、その他有価証券で時価のない非上場株式について7,941千円減損処理を行っております。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる株式の減損処理にあたっては、実質価額が取得原価に比べ50%以上下落した場合に、個別に回収可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、2017年9月1日より確定拠出年金制度及び確定給付制度(退職一時金制度)を導入いたしました。退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算は、退職給付に係る期末自己都合要支給額を用いた簡便法を適用しております。また、連結子会社のウベパレットサービス株式会社は中小企業退職金共済制度(中退共)に加入しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	- 千円	147,010千円
過年度の勤務期間に係る退職給付費用	118,065	-
退職給付費用	30,828	32,886
退職給付の支払額	1,882	11,456
退職給付に係る負債の期末残高	147,010	168,441

(2) 退職給付債務及び連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
非積立制度の退職給付債務	147,010千円	168,441千円
連結貸借対照表に計上された負債	147,010	168,441
退職給付に係る負債	147,010	168,441
連結貸借対照表に計上された負債	147,010	168,441

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度 30,828千円 当連結会計年度 32,886千円
 なお、上記のほか、2017年9月1日より退職一時金制度を導入するにあたり、過年度の勤務期間に係る退職給付に係る負債の要計上額118,065千円を前連結会計年度において特別損失に計上しております。

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度20,325千円、当連結会計年度22,000千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	81,793千円	75,158千円
役員賞与引当金	20,369	-
未払役員報酬	-	24,704
未払事業税	43,404	21,381
退職給付に係る負債	50,795	58,194
役員退職慰労引当金	133,299	149,098
固定資産譲渡損益調整	4,809	4,808
減損損失	98,785	101,090
その他	62,529	64,724
小計	495,786	499,161
評価性引当額	185,866	204,376
計	309,919	294,784
繰延税金負債		
有形固定資産(資産除去債務)	2,534	2,490
特別償却準備金	39,189	43,717
その他有価証券評価差額金	23,258	19,398
その他	3,687	6,989
計	68,669	72,595
繰延税金資産の純額	241,249	222,188

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
固定資産 - 繰延税金資産	241,249千円	222,558千円
固定負債 - 繰延税金負債	-	369

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当連結会計年度 (2019年8月31日)
法定実効税率	34.8%	34.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.5	2.0
評価性引当額の増減	0.4	2.4
税額控除	6.2	3.7
住民税均等割	0.3	1.5
その他	1.8	1.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.0	37.9

(資産除去債務関係)

重要性がないため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループのセグメントについては、事業の種類別に構成されており、「物流事業」及び「コネクティッド事業」を報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「物流事業」は、パレットを中心とした物流機器のレンタル及び販売事業を行っております。

「コネクティッド事業」は、最新のIT技術を活用したソリューション提供事業であり、位置情報ソリューション、遠隔監視ソリューションからなる「IoTサービス」及びカーシェアリングを行う「ビークルソリューションサービス」等を行っております。

(3) 報告セグメントの利益又は損失の測定方法の変更

当連結会計年度より、報告セグメントの業績をより適切に反映させるため、各報告セグメントへの一般管理費の配賦方法を変更しております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報については、変更後の方法で作成したものを記載しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、経常損益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
 前連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結 財務諸表 計上額 (注)2
	物流事業	コネクティッド 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,509,839	857,384	10,367,224	-	10,367,224
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	366	366	366	-
計	9,509,839	857,750	10,367,590	366	10,367,224
セグメント利益又は 損失()	1,687,630	30,510	1,657,120	853,719	803,401
その他の項目					
減価償却費	1,595,243	6,439	1,601,682	69,190	1,670,872
受取利息	0	-	0	6	6
支払利息	2,568	-	2,568	29,469	32,038

(注)1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失の調整額 853,719千円には、セグメント間取引消去60千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 853,779千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費並びに営業外損益であります。
 - (2) 減価償却費の調整額69,190千円には、セグメント間取引消去 48千円、各報告セグメントに配分していない全社費用69,238千円が含まれております。
 - (3) 受取利息の調整額6千円には、セグメント間取引消去 2,565千円、各報告セグメントに配分していない全社収益2,572千円が含まれております。
 - (4) 支払利息の調整額29,469千円には、セグメント間取引消去 2,568千円、各報告セグメントに配分していない全社費用32,038千円が含まれております。
2. セグメント利益又は損失は、それぞれ連結財務諸表の経常利益と調整を行っております。
3. セグメント資産及び負債については、取締役会に対して定期的に提供されておらず、経営資源の配分決定及び業績評価の検討対象になっていないため記載しておりません。
4. 報告セグメントに対して特定の資産は配分しておりませんが、減価償却費等の関連費用は配分しておりません。

当連結会計年度(自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結 財務諸表 計上額 (注)2
	物流事業	コネクティッド 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,528,030	1,143,453	11,671,483	-	11,671,483
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	10,528,030	1,143,453	11,671,483	-	11,671,483
セグメント利益	1,792,866	146,894	1,939,761	931,724	1,008,037
その他の項目					
減価償却費	1,959,187	21,668	1,980,856	67,327	2,048,183
受取利息	6	-	6	25	32
支払利息	2,797	-	2,797	30,538	33,336

(注)1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 931,724千円には、セグメント間取引消去315千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 932,039千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費並びに営業外損益であります。
 - (2) 減価償却費の調整額67,327千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用67,327千円が含まれております。
 - (3) 受取利息の調整額25千円には、セグメント間取引消去 2,790千円、各報告セグメントに配分していない全社収益2,816千円が含まれております。
 - (4) 支払利息の調整額30,538千円には、セグメント間取引消去 2,797千円、各報告セグメントに配分していない全社費用33,336千円が含まれております。
2. セグメント利益は、それぞれ連結財務諸表の経常利益と調整を行っております。
3. セグメント資産及び負債については、取締役会に対して定期的に提供されておらず、経営資源の配分決定及び業績評価の検討対象になっていないため記載しておりません。
4. 報告セグメントに対して特定の資産は配分しておりませんが、減価償却費等の関連費用は配分しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年9月1日 至 2018年8月31日）

（単位：千円）

	物流事業	コネクティッド事業	調整額	合計
減損損失	2,305	59,706	-	62,011

当連結会計年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

（単位：千円）

	物流事業	コネクティッド事業	調整額	合計
減損損失	5,475	69,244	-	74,719

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等
 該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等
 該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
1株当たり純資産額	3,572円9銭	3,809円68銭
1株当たり当期純利益	493円86銭	464円31銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 2019年1月21日開催の当社取締役会の決議に基づき、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	566,949	573,084
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	566,949	573,084
普通株式の期中平均株式数(株)	1,148,000	1,234,267

(重要な後発事象)

(株式分割及び定款の一部変更)

当社は、2019年10月15日開催の取締役会において、下記のとおり株式分割及び定款の一部変更を行うことについて決議いたしました。

1. 株式分割の目的

株式分割を実施することにより、当社株式の投資単位あたりの金額を引き下げ、当社株式の流動性を高めるとともに、投資家層の拡大を図ることを目的としております。

2. 株式分割の内容

(1) 株式分割の内容

2019年11月30日を基準日として、同日最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する普通株式を、1株につき5株の割合をもって分割いたします。

なお基準日である2019年11月30日は休日扱いとなるため実質的には2019年11月29日となります。

(2) 分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数	1,532,000株
今回の分割により増加する株式数	6,128,000株
株式分割後の発行済株式総数	7,660,000株
株式分割後の発行可能株式総数	30,000,000株

(3) 日程

基準日公告日	2019年11月15日
基準日	2019年11月30日
効力発生日	2019年12月1日

(4) 1株当たり情報に与える影響

当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は以下のとおりとなります。

前連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

	前連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)
1株当たり純資産額	714円42銭
1株当たり当期純利益	98円77銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

当連結会計年度(自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

	当連結会計年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
1株当たり純資産額	761円94銭
1株当たり当期純利益	92円86銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(5) その他

今回の株式分割に際して、当社の資本金の額に変更はありません。

3. 株式分割に伴う定款の一部変更について

(1) 定款変更の理由

今回の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2019年12月1日をもって当社の定款第6条の発行可能株式総数を変更いたします。

(2) 定款変更の内容

(下線部分に変更箇所を示しています)

変更前	変更後
(発行可能株式総数) 第6条 当社の発行可能株式総数は、 <u>600</u> 万株とする。	(発行可能株式総数) 第6条 当社の発行可能株式総数は、 <u>3,000</u> 万株とする。

(3) 定款変更の日程

定款の一部変更の効力発生日 2019年12月1日

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	1,269,045	2,358,038	0.50	-
1年以内に返済予定のリース債務	6,170	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	5,554,494	5,211,458	0.41	2020年～2029年
合計	6,829,709	7,569,496	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,133,184	1,129,654	870,904	625,290

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	-	5,612,977	8,655,951	11,671,483
税金等調整前四半期(当期) 純利益(千円)	-	458,784	754,380	922,858
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益(千円)	-	278,713	462,525	573,084
1株当たり四半期(当期)純 利益(円)	-	242.78	402.90	464.31

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	-	126.91	160.12	61.41

(注) 1. 当社は、2019年6月12日付で東京証券取引所市場第二部に上場いたしましたので、第1四半期及び第2四半期の四半期報告書は提出しておりませんが、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

2. 当社は、2019年2月28日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年8月31日)	当事業年度 (2019年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,875,655	2,755,420
受取手形	97,703	112,764
電子記録債権	164,127	90,583
売掛金	2 1,365,022	2 1,526,434
リース債権	6,045	6,633
リース投資資産	6,170	-
商品	277,471	174,521
貯蔵品	4,064	7,830
前渡金	23,659	15,120
前払費用	152,224	147,881
その他	2 41,991	2 269,169
貸倒引当金	7,616	11,164
流動資産合計	5,006,519	5,095,194
固定資産		
有形固定資産		
レンタル資産	5,400,919	8,124,140
建物	1 893,968	1 867,514
構築物	96,714	87,605
機械及び装置	76,609	67,568
車両運搬具	37,837	39,650
工具、器具及び備品	143,242	49,360
土地	954,108	954,108
建設仮勘定	5,780	61,437
有形固定資産合計	7,609,181	10,251,384
無形固定資産		
特許権	2,113	2,432
商標権	2,542	2,173
ソフトウェア	380,335	319,164
その他	32,409	14,840
無形固定資産合計	417,400	338,611
投資その他の資産		
投資有価証券	260,457	234,946
関係会社株式	251,429	251,429
関係会社長期貸付金	146,800	168,600
長期前払費用	115,242	81,876
繰延税金資産	229,638	210,689
その他	300,140	268,520
貸倒引当金	94,363	112,412
投資その他の資産合計	1,209,345	1,103,649
固定資産合計	9,235,926	11,693,645
資産合計	14,242,445	16,788,840

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年8月31日)	当事業年度 (2019年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,179,084	2,197,002
1年内返済予定の長期借入金	1,269,045	2,358,038
リース債務	6,170	-
未払金	2,221,614	2,285,687
未払費用	23,705	50,307
未払法人税等	448,797	219,724
前受金	453	-
預り金	12,604	34,762
前受収益	17,769	20,460
賞与引当金	225,915	206,647
役員賞与引当金	58,888	-
その他	191	173
流動負債合計	4,082,239	5,150,804
固定負債		
長期借入金	5,554,494	5,211,458
退職給付引当金	133,272	154,510
役員退職慰労引当金	385,258	431,045
資産除去債務	13,291	14,035
固定負債合計	6,086,316	5,811,049
負債合計	10,168,555	10,961,854
純資産の部		
株主資本		
資本金	96,000	96,000
資本剰余金		
その他資本剰余金	-	391,349
資本剰余金合計	-	391,349
利益剰余金		
利益準備金	25,404	25,404
その他利益剰余金		
特別償却準備金	74,099	82,669
別途積立金	3,700,000	3,700,000
繰越利益剰余金	915,234	1,495,055
利益剰余金合計	4,714,738	5,303,129
自己株式	780,811	176
株主資本合計	4,029,927	5,790,302
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	43,962	36,682
評価・換算差額等合計	43,962	36,682
純資産合計	4,073,890	5,826,985
負債純資産合計	14,242,445	16,788,840

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当事業年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
売上高	2 10,075,634	2 11,288,530
売上原価	2 6,605,530	2 7,238,383
売上総利益	3,470,103	4,050,147
販売費及び一般管理費	1, 2 2,806,578	1, 2 3,267,331
営業利益	663,525	782,815
営業外収益		
受取利息及び配当金	2 7,767	2 7,099
受取補償金	2 154,422	2 186,976
保険解約返戻金	-	70,349
その他	2 39,763	41,487
営業外収益合計	201,953	305,912
営業外費用		
支払利息	32,038	33,336
貸倒引当金繰入額	22,487	18,048
為替差損	1,230	8,335
その他	1,679	4,356
営業外費用合計	57,435	64,077
経常利益	808,042	1,024,650
特別利益		
固定資産売却益	757	629
投資有価証券売却益	175,979	-
特別利益合計	176,736	629
特別損失		
減損損失	61,701	73,156
退職給付費用	105,105	-
その他	1,901	11,600
特別損失合計	168,708	84,756
税引前当期純利益	816,071	940,523
法人税、住民税及び事業税	473,401	326,452
法人税等調整額	234,340	22,809
法人税等合計	239,061	349,262
当期純利益	577,010	591,261

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)			当事業年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)		
		金額(千円)		構成比 (%)	金額(千円)		構成比 (%)
レンタル原価							
1 減価償却費		1,418,335			1,768,203		
2 保管料		1,188,131			1,217,506		
3 補修費		323,298			353,170		
4 運送原価		762,802			873,345		
5 その他		156,617	3,849,186	58.3	164,783	4,377,010	60.5
販売原価							
1 期首商品たな卸高		46,038			50,550		
2 商品仕入高		2,219,224			2,158,094		
3 期末商品たな卸高		50,550	2,214,711	33.5	13,400	2,195,244	30.3
サービス原価							
1 期首サービス在庫たな卸高		22,199			226,921		
2 サービス仕入高		746,355			600,327		
3 期末サービス在庫たな卸高		226,921	541,633	8.2	161,120	666,127	9.2
売上原価合計			6,605,530	100.0		7,238,383	100.0

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年9月1日 至 2018年8月31日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	利益剰余金					利益剰余金合計		
		利益準備金	その他利益剰余金						
			特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	96,000	25,404	47,591	3,700,000	367,602	4,140,598	780,811	3,455,787	
当期変動額									
剰余金の配当					2,870	2,870		2,870	
当期純利益					577,010	577,010		577,010	
特別償却準備金の積立			36,543		36,543	-		-	
特別償却準備金の取崩			10,036		10,036	-		-	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	26,507	-	547,632	574,140	-	574,140	
当期末残高	96,000	25,404	74,099	3,700,000	915,234	4,714,738	780,811	4,029,927	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	136,454	136,454	3,592,242
当期変動額			
剰余金の配当			2,870
当期純利益			577,010
特別償却準備金の積立			-
特別償却準備金の取崩			-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	92,491	92,491	92,491
当期変動額合計	92,491	92,491	481,648
当期末残高	43,962	43,962	4,073,890

当事業年度（自 2018年9月1日 至 2019年8月31日）

（単位：千円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					自己株式	株主資本合計
		その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
					特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	96,000	-	-	25,404	74,099	3,700,000	915,234	4,714,738	780,811	4,029,927
当期変動額										
剰余金の配当							2,870	2,870		2,870
当期純利益							591,261	591,261		591,261
自己株式の処分		391,349	391,349						780,811	1,172,160
自己株式の取得									176	176
特別償却準備金の積立					25,861		25,861	-		-
特別償却準備金の取崩					17,290		17,290	-		-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	391,349	391,349	-	8,570	-	579,820	588,391	780,635	1,760,375
当期末残高	96,000	391,349	391,349	25,404	82,669	3,700,000	1,495,055	5,303,129	176	5,790,302

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	43,962	43,962	4,073,890
当期変動額			
剰余金の配当			2,870
当期純利益			591,261
自己株式の処分			1,172,160
自己株式の取得			176
特別償却準備金の積立			-
特別償却準備金の取崩			-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	7,279	7,279	7,279
当期変動額合計	7,279	7,279	1,753,095
当期末残高	36,682	36,682	5,826,985

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

有価証券

(イ) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(ロ) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております

たな卸資産

(イ) 商品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(ロ) 貯蔵品

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

(イ) レンタル資産

過去の実績に基づく見積耐用年数(5~10年)による定額法を採用しております。

(ロ) その他

定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 7~50年

機械及び装置 8~17年

無形固定資産

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4. 引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. 重要な収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(単体開示の簡素化に伴う財務諸表等規則第127条の適用及び注記の免除等に係る表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」151,201千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」229,638千円に含めて表示しております。

(有価証券明細表)

財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年8月31日)	当事業年度 (2019年8月31日)
圧縮記帳額	4,900千円	4,900千円
(うち、建物)	(4,900)	(4,900)

2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (2018年8月31日)	当事業年度 (2019年8月31日)
短期金銭債権	50,019千円	208,455千円
短期金銭債務	20,949	30,413

3 当座貸越契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年8月31日)	当事業年度 (2019年8月31日)
当座貸越極度額の総額	6,400,000千円	10,800,000千円
借入実行残高	400,000	863,326
差引額	6,000,000	9,936,674

(損益計算書関係)

1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度69%、当事業年度69%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度31%、当事業年度31%であります。

販売費及び一般管理費に含まれる主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当事業年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
従業員給料及び賞与	874,853千円	986,911千円
退職給付費用	50,375	52,592
賞与引当金繰入額	196,439	178,639
役員賞与引当金繰入額	56,112	-
役員退職慰労引当金繰入額	64,375	45,787
減価償却費	173,018	189,942
貸倒引当金繰入額	5,267	3,789

2 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	当事業年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
営業取引による取引高		
売上高	57,996千円	65,041千円
仕入高	182,437	199,537
その他	5,055	2,400
営業取引以外の取引による取引高	12,416	11,499

(有価証券関係)

前事業年度(2018年8月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額は関係会社株式251,429千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(2019年8月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額は関係会社株式251,429千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年 8月31日)	当事業年度 (2019年 8月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	78,144千円	71,479千円
役員賞与引当金	20,369	-
未払役員報酬	-	24,704
未払事業税	43,404	21,381
退職給付引当金	46,112	53,445
役員退職慰労引当金	133,299	149,098
固定資産譲渡損益調整	4,809	4,808
減損損失	96,396	99,318
関係会社株式評価損	44,127	44,114
貸倒引当金	28,936	35,780
その他	22,791	22,002
小計	518,391	526,135
評価性引当額	220,083	243,219
計	298,308	282,915
繰延税金負債		
有形固定資産 (資産除去債務)	2,534	2,490
特別償却準備金	39,189	43,717
その他有価証券評価差額金	23,258	19,398
その他	3,687	6,619
計	68,669	72,226
繰延税金資産の純額	229,638	210,689

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年 8月31日)	当事業年度 (2019年 8月31日)
法定実効税率	34.8%	34.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.3	1.4
評価性引当額の増減	1.0	2.5
税額控除	6.1	3.7
住民税均等割	0.3	1.4
その他	2.0	0.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.3	37.1

(重要な後発事象)

(株式分割及び定款の一部変更)

当社は、2019年10月15日開催の取締役会において、下記のとおり株式分割及び定款の一部変更を行うことについて決議いたしました。

1. 株式分割の目的

株式分割を実施することにより、当社株式の投資単位あたりの金額を引き下げ、当社株式の流動性を高めるとともに、投資家層の拡大を図ることを目的としております。

2. 株式分割の内容

(1) 株式分割の内容

2019年11月30日を基準日として、同日最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する普通株式を、1株につき5株の割合をもって分割いたします。

なお基準日である2019年11月30日は休日扱いとなるため実質的には2019年11月29日となります。

(2) 分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数	1,532,000株
今回の分割により増加する株式数	6,128,000株
株式分割後の発行済株式総数	7,660,000株
株式分割後の発行可能株式総数	30,000,000株

(3) 日程

基準日公告日	2019年11月15日
基準日	2019年11月30日
効力発生日	2019年12月1日

(4) 1株当たり情報に与える影響

当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は以下のとおりとなります。

前事業年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

	前事業年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)
1株当たり純資産額	709円74銭
1株当たり当期純利益	100円52銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

当事業年度(自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)

	当事業年度 (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
1株当たり純資産額	760円72銭
1株当たり当期純利益	95円81銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(5) その他

今回の株式分割に際して、当社の資本金の額に変更はありません。

3. 株式分割に伴う定款の一部変更について

(1) 定款変更の理由

今回の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2019年12月1日をもって当社の定款第6条の発行可能株式総数を変更いたします。

(2) 定款変更の内容

(下線部分に変更箇所を示しています)

変更前	変更後
(発行可能株式総数) 第6条 当社の発行可能株式総数は、 <u>600</u> 万株とする。	(発行可能株式総数) 第6条 当社の発行可能株式総数は、 <u>3,000</u> 万株とする。

(3) 定款変更の日程

定款の一部変更の効力発生日 2019年12月1日

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区 分	資産の 種 類	当 期 首 残 高	当 期 増 加 額	当 期 減 少 額	当 期 償 却 額	当 期 末 残 高	減 価 償 却 累 計 額
有 形 固 定 資 産	レンタル資産	5,400,919	4,452,899	43,370 (43,172)	1,686,308	8,124,140	19,176,522
	建物	893,968	24,714	3,611	47,557	867,514	348,481
	構築物	96,714	538	173	9,473	87,605	81,388
	機械及び装置	76,609	-	-	9,041	67,568	90,441
	車両運搬具	37,837	23,260	258	21,189	39,650	158,676
	工具、器具及び備品	143,242	33,252	255 (248)	126,879	49,360	318,365
	土地	954,108	-	-	-	954,108	-
	建設仮勘定	5,780	144,611	88,955	-	61,437	-
	計	7,609,181	4,679,278	136,624 (43,421)	1,900,450	10,251,384	20,173,874
無 形 固 定 資 産	特許権	2,113	754	-	434	2,432	1,587
	商標権	2,542	-	-	369	2,173	1,521
	ソフトウェア	380,335	93,444	16,535 (16,535)	138,079	319,164	792,222
	その他	32,409	54,241	71,810 (13,200)	-	14,840	-
	計	417,400	148,439	88,345 (29,735)	138,883	338,611	795,331

(注) 1. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 「レンタル資産」の「当期増加額」は主としてパレット等の物流機器の購入によるものであります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科 目	当 期 首 残 高	当 期 増 加 額	当 期 減 少 額	当 期 末 残 高
貸倒引当金	101,980	23,932	2,335	123,577
賞与引当金	225,915	206,647	225,915	206,647
役員賞与引当金	58,888	-	58,888	-
役員退職慰労引当金	385,258	45,787	-	431,045

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年9月1日から翌年8月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3か月以内
基準日	毎年8月31日
剰余金の配当の基準日	2月末日 毎年8月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL https://www.upr-net.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款に定めております。

- ・会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- ・会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- ・株主の有する株式数に応じて募集株式及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券届出書（有償一般募集による自己株式の処分及び売出し）及びその添付書類
2019年5月9日中国財務局長に提出。
- (2) 有価証券届出書の訂正届出書
2019年5月24日及び2019年6月3日中国財務局長に提出。
2019年5月9日提出の有価証券届出書に係る訂正届出書であります。
- (3) 四半期報告書及び確認書
（第41期第3四半期）（自 2019年3月1日 至2019年5月31日）2019年7月12日中国財務局長に提出。
- (4) 臨時報告書
2019年6月12日中国財務局長に提出。
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）に基づく臨時報告書であります。
2019年11月28日中国財務局長に提出
金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。
- (5) 臨時報告書の訂正報告書
2019年6月14日中国財務局長に提出
2019年6月12日提出の臨時報告書（主要株主の異動）に係る訂正報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2019年11月28日

ユーピーアール株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 幸毅 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小宮山 高路 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているユーピーアール株式会社の2018年9月1日から2019年8月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ユーピーアール株式会社及び連結子会社の2019年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年11月28日

ユーピーアール株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 幸毅 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小宮山 高路 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているユーピーアール株式会社の2018年9月1日から2019年8月31日までの第41期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ユーピーアール株式会社の2019年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。